OpenLab CDS クライアント／機器コントローラ

インストールおよびコンフィグレーション

注意

文書情報

文書番号 : D0013818ja Rev. C
エディション : 2024 年 2 月

著作権

© Agilent Technologies, Inc. 2015-2014

本マニュアルの内容は米国著作権法および国際著作権法によって保護されており、Agilent Technologies, Inc. の書面による事前の許可なく、本書の一部または全部を複製することはいかなる形態や方法（電子媒体への保存やデータの抽出または他国語への翻訳など）によっても禁止されています。

Agilent Technologies, Inc.
5301 Stevens Creek Blvd.
Santa Clara, CA 95051,

USA

ソフトウェアリビジョン

このガイドは改訂版が発行されるまで、Agilent OpenLab CDS のリビジョン 2.7 に対応しています。

保証

このマニュアルの内容は「現状有姿」提供されるものであり、将来の改訂版で予告なく変更されることがあります。Agilent は、法律上許容される最大限の範囲で、このマニュアルおよびこのマニュアルに含まれるいかなる情報に関しても、明示黙示を問わず、商品性の保証や特定目的適合性の保証を含むいかなる保証も行いません。Agilent は、このマニュアルまたはこのマニュアルに記載されている情報の提供、使用または実行に関連して生じた過誤、付随的損害あるいは間接的損害に対する責任を一切負いません。Agilent とお客様の間に書面による別の契約があり、このマニュアルの内容に対する保証条項がここに記載されている条件と矛盾する場合は、別に合意された契約の保証条項が適用されます。

技術ライセンス

本書で扱っているハードウェアおよびソフトウェアは、ライセンスに基づき提供されており、それらのライセンス条項に従う場合のみ使用または複製することができます。

権利の制限

米国政府の制限付き権利について：連邦政府に付与されるソフトウェアおよび技術データに係る権利は、エンドユーザーのお客様に通例提供されている権利に限定されています。Agilent は、ソフトウェアおよび技術データに係る通例の本商用ライセンスを、FAR 12.211（Technical Data）および 12.212（Computer Software）、並びに、国防総省に対しては、DFARS 252.227-7015（Technical Data -Commercial Items）および DFARS 227.7202-3（Rights in Commercial Computer Software or Computer Software Documentation）の規定に従い提供します。

安全にご使用いただくために

注意

注意は、取り扱い上、危険があることを示します。正しく実行しなかったり、指示を遵守しないと、製品の破損や重要なデータの損失に至るおそれのある操作手順や行為に対する注意を促すマークです。指示された条件を十分に理解し、条件が満たされるまで、**注意**を無視して先に進んではなりません。

警告

警告は、取り扱い上、危険があることを示します。正しく実行しなかったり、指示を遵守しないと、人身への傷害または死亡に至るおそれのある操作手順や行為に対する注意を促すマークです。指示された条件を十分に理解し、条件が満たされるまで、警告を無視して先に進んではなりません。

本書の内容

このドキュメントには、OpenLab CDS クライアントおよび機器コントローラのインストール手順、コンフィグレーション、管理、およびメンテナンスの方法が記載されています。SubscribeNet からのライセンス作成とオペレーティングシステムの設定に関する情報も記載しています。

表 1　　本書で使用される用語と略語

用語	説明
Content Management	データベースを含む分析データを管理するための OpenLab サーバーのコンポーネント。クライアント/サーバーシステムでは常に使用しますが、ワークステーションではオプションです。
AIC	Agilent の分析機器コントローラ
コントロールパネル	Agilent OpenLab ソフトウェア用コントロールパネル
Microsoft コントロールパネル	Microsoft Windows オペレーティングシステムの一部
Shared Services	OpenLab CDS のセキュリティポリシーやコンフィグレーションの一元管理などを制御する一連の管理サービス。Shared Services にはコントロールパネルからアクセスします。

1　PC の準備

この章では、PC ハードウェアの設定方法と、OpenLab CDS ソフトウェアのインストールの準備方法を説明します。Agilent 提供の PC バンドルには、サポートされている Windows オペレーティングシステムがインストールされており、いくつかの手順をスキップできるようになっています。

2　OpenLab CDS のインストール

この章では、クライアント/サーバー環境での OpenLab CDS ソフトウェアのインストールについて説明します。

3 インストール後のタスク

この章では、インストール終了後に行うタスクについて説明します。

4 オプションの手順

この章では、追加のソフトウェアのインストールやアップグレードについて説明します。OpenLab Help & Learning のみのインストールや、オフラインマシン上でのパフォーマンス向上に関する情報も記載しています。

5 ライセンス

この章では、OpenLab のライセンスに関する基本的な情報を提供し、SubscribeNet でライセンスファイルを作成する方法について説明します。

6 OpenLab CDS の設定

この章では、ソフトウェアのインストール後の初期設定手順について説明します。すべてのコンフィグレーションタスクはコントロールパネルで実行します。詳細については、「OpenLab Help & Learning」の「コントロールパネル」セクションを参照してください。

7 OpenLab CDS ソフトウェアについて

この章では、基本的なソフトウェア機能について概説します。

8 システム設定およびメンテナンス

この章には、コントロールパネルと Shared Services のメンテナンスに関する情報を記載しています。さらに、メンテナンス手順に関する情報も記載しています。

9 最新の OpenLab CDS バージョンへのアップグレード

この章では、クライアント/サーバー環境での OpenLab CDS ソフトウェアのアップグレードについて説明します。

10 OpenLab CDS のアンインストール

この章では、OpenLab CDS ソフトウェアのアンインストールについて説明します。

目次

1 PC の準備 8

Windows のインストールおよび更新 9
.NET 3.5 および 4.x Framework のインストール 11
OpenLab CDS のインストールを開始する前に 13
System Preparation Tool の実行 14

2 OpenLab CDS のインストール 18

インストールワークフローの概要 19
インストールの準備 21
OpenLab Server のインストール 21
OpenLab CDS のインストール（クライアントまたは機器コントローラ） 22
ターミナルサーバー上での CDS クライアントのインストール 27
サイレントインストール 28
ドライバーソフトウェアのインストールまたはアップグレード 33

3 インストール後のタスク 35

ソフトウェアインストール後のソフトウェアベリフィケーション 36
集中管理された出力先の準備 37
自動解析中のネットワーク共有へのエクスポートを準備 40
ウィルス対策プログラムの設定 44

4 オプションの手順 48

OpenLab Help & Learning のみインストール 49
オフラインマシン上でのパフォーマンスの向上 50
NIST ライブラリ検索の設定 51

5 ライセンス 52

OpenLab CDS ライセンスについて 53

ライセンスの取得　55
ライセンスのインストール　59

6　OpenLab CDS の設定　60

認証の設定　61
セキュリティポリシーの設定　62
ユーザーおよびロールの設定　63
初期プロジェクトの設定　68
初期機器のコンフィグレーション　68
コントロールパネルのその他の設定　69

7　OpenLab CDS ソフトウェアについて　70

ソフトウェアアーキテクチャ　71
21 CFR Part 11 のコンプライアンス　75
カスタマイズ　77

8　システム設定およびメンテナンス　79

コントロールパネル　80
その他のメンテナンス手順　85

9　最新の OpenLab CDS バージョンへのアップグレード　86

ライセンスアップグレード　87
アップグレードプロセス　89
手順 1: OpenLab Server のアップグレード　91
手順 2: 分析機器コントローラのアップグレード　91
手順 3: OpenLab CDS クライアントのアップグレード　94
手順 4: ドライバーのアップグレード　95
サーバーへのクライアントまたは機器コントローラの登録　96
Sample Scheduler for OpenLab　98
新しい権限およびロール　99

10　OpenLab CDS のアンインストール　100

クライアントまたは分析機器コントローラ（AIC）の
アンインストール　101

OpenLab Server のアンインストール　101
OpenLab Help & Learning のみのアンインストール　102

11　付録　103

Sample Scheduler ボタンを OpenLab CDS Acquisition から削除　104
コントロールパネルの権限　105
営業およびサポートのお問い合わせ先　118

1 PC の準備

Windows のインストールおよび更新 9
.NET 3.5 および 4.x Framework のインストール 11
OpenLab CDS のインストールを開始する前に 13
System Preparation Tool の実行 14

この章では、PC ハードウェアの設定方法と、OpenLab CDS ソフトウェアのインストールの準備方法を説明します。Agilent 提供の PC バンドルには、サポートされている Windows オペレーティングシステムがインストールされており、いくつかの手順をスキップできるようになっています。

Windows のインストールおよび更新

1 Microsoft インストールメディアまたは IT 部門により提供された適格な PC イメージメディアから Windows オペレーティングシステムをインストールします。設定時に、コンピューター名、管理者のパスワード、およびネットワークの設定を指定します。

   コンピューター名には、下線（アンダースコア）は使用しないでください。コンピューター名に下線が含まれていると、インストールはできません。

   クライアントと機器コントローラの両方が Windows ドメインである必要があります。ワークグループモードのシステムはサポートされていません。ドメイン命名が RFC-1034 と一致している必要があります。

2 Microsoft コントロールパネルで［**システム**］> ［**Windows ライセンス認証**］の［**プロダクトキーの変更**］をクリックします。有効な値を入力して Windows をライセンス認証します。

3 Windows の推奨バージョンに更新します。OpenLab CDS ページの FAQ セクションを参照してください（**https://www.agilent.com/chem/jp** を開き、［**サポート**］［FAQ（よくある質問）］ ページに移動し ［**CDS2、ChemStation、EZChrom 関連**］ > ［**OpenLab CDS 2**］ の順にクリック）。

4 Windows 品質更新プログラムを確認し、重要なセキュリティパッチをすべて適用します。Windows の最新バージョンのインストールは選択しないでください（前のステップを参照）。OpenLab CDS のインストールを続行する前に、Windows 品質更新プログラムが完了していることを確認してください。

5 コンピューターがすべての要件を満たしていることを確認します。インストールメディアの Setup¥Docs フォルダーにある『要件とサポートする機器 ワークステーション、クライアント、および機器コントローラ』ガイド（CDS_v2.7_Requirements_ja.pdf）を参照してください。

   この PDF で、設定がネットワーク要件に従っていることを確認し、使用するハードウェアとソフトウェアがこのシステムでサポートされるかどうかを判断します。

6 『要件とサポートする機器 ワークステーション、クライアント、および機器コントローラ』ガイド（CDS_v2.7_Requirements_ja.pdf）の「ファイアウォールの設定」に記載されたファイアウォールポートを必ず開いてください。

TCP ポート 80 および 443 が利用できることを確認してください。

注記

これらのポートが他のプログラムで使用されている場合：
［World Wide Web 発行サービス］のスタートアップの種類を**［手動］**または**［無効］**に設定するか、インターネット インフォメーション サービス（Internet Information Services = IIS）を無効にします。

7 **リモート設定**：Microsoft コントロールパネルで、**［システム］** > **［リモートデスクトップ］**に移動します。**［リモート デスクトップ］**セクションの**［リモートデスクトップを有効にする］**を選択します。

8 Microsoft コントロールパネルの**［日付と時刻］**で、地域のタイムゾーンを選択します。

.NET 3.5 および 4.x Framework のインストール

システムに .NET 3.5 および .NET 4.x がインストールされていない場合、インストールウィザードによって自動的にインストールされます。ただし、システムの再起動が必要な場合があります。インストール中のシステム再起動を避けるには、事前に .NET をインストールしてください。

1 Microsoft コントロールパネルを選択します。

Windows［スタート］メニューで、**［プログラムとファイルの検索］**フィールドに「コントロールパネル」と入力します（または、[Win+R] を押して「コントロールパネル」と入力します）。コントロールパネルビューにすべての項目を表示するには、**［表示方法］**フィールドの**［小さいアイコン］**を選択します。

2 **［プログラムと機能］**へ移動します。

3 **［Windows の機能の有効化または無効化］**へ移動します。

4 以下のように .NET 3.5 を有効にします。

a **［.NET Framework 3.5（.NET 2.0 および 3.0 を含む）］**ノードを展開します。

b **［Windows Communication Foundation 非 HTTP アクティブ化］**チェックボックスを選択します。

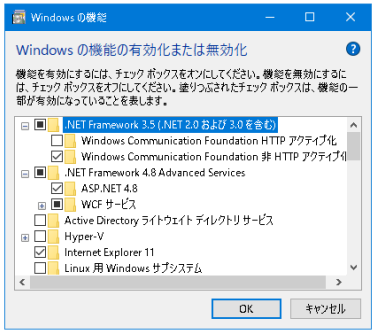


図 1　　.NET 3.5 を有効にする（Win 10）

注記

この作業には、インターネット接続が必要です。期待どおりに機能しない場合や、コンピューターがインターネットにアクセスできない場合は、.NET 3.5 を手動でインストールしてください。Microsoft では複数のインストールオプションを提供しています。詳細については、以下を参照してください。

- **https://learn.microsoft.com/ja-jp/windows-hardware/manufacture/desktop/deploy-net-framework-35-by-using-deployment-image-servicing-and-management--dism?view=windows-11**

  あるいは、

- **https://learn.microsoft.com/ja-jp/dotnet/framework/install/dotnet-35-windows?view=windows-11**

5 ［NET Framework 4.8 Advanced Services］をチェックボックスを選択します。サブアイテムに対しては、既定値を使用します。

OpenLab CDS のインストールを開始する前に

ソフトウェアのインストールを簡略化するには、ソフトウェアインストールを実際に開始する前に一部のコンフィグレーションオプションを決めておくと便利です。

1 コンピューター名を決めます。

注記

下線（アンダースコア）は使用しないでください。コンピューター名に下線が含まれていると、インストールはできません。

DNS サーバーがコンピューター名を解決できるように、プロトコルのインターネット標準（RFC952）に従い以下の文字で構成してください。

- 文字（a-z、A-Z）
- 数値（0-9）
- ハイフン（-）

2 ケーブル、検出器、通信ケーブルなど、必要なハードウェアをすべて接続します。Agilent 以外の機器では、GPIB インターフェイスが必要な場合があります。

3 インストールを実行する管理者権限を持ったアカウントを準備。

4 すべてのコンポーネントを正常にインストールおよびアクティベーションできるようにするため、LAN ケーブルが接続され、ネットワークが利用できることを確認してください。ローカルネットワークで十分です。ネットワークケーブルを接続せずにワークステーションをインストールした場合、Content Management コンポーネントのアクティベーションが失敗し、データベースを実行しようとするとエラーが返されます。

5 インストールを行う間は、ウイルス対策ソフトウェアを無効にしてください。

6 インストールパッケージやソフトウェア製品のソフトウェアアップデートがないか Agilent サービスノートを確認します。サービスノートは Agilent 販売代理店から入手できます。

7 Trend Micro™ をウィルス対策ソフトウェアとして使用する場合、**Web レピュテーション** をオフにして、すべてのコンポーネントのインストールを許可します。

8 OpenLab CDS の以前のバージョンからアップグレードする場合は、「OpenLab CDS のアップグレード」の章を参照してください。

System Preparation Tool の実行

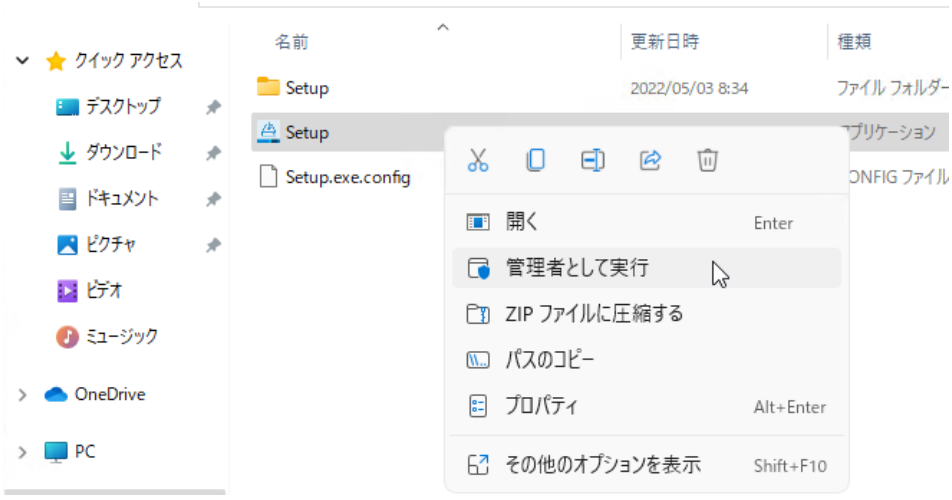
System Preparation Tool（SPT）を実行すると、Windows の設定を確認してマシンに適用します。OpenLab インストーラを実行しても、設定が自動的に適用されます。事前に SPT を実行するとインストールプロセスが短縮されます。必須設定と推奨設定の概要は、『OpenLab CDS ワークステーション、クライアント、および機器コントローラ 要件とサポートする機器』ガイド（CDS_v2.7_Requirements_ja.pdf）の「System Preparation Tool」の章を参照してください。

1 オプション：USB メディアのファイルをすべてローカルドライブまたは指定されたフォルダーにコピーし、USB メディアを PC から外します。

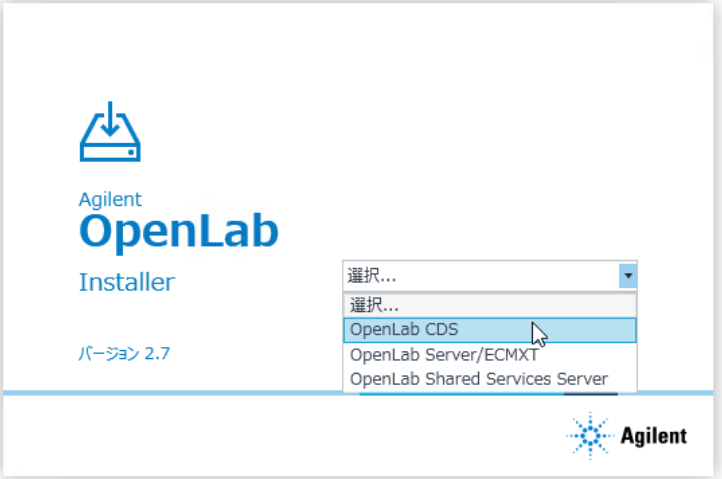
2 インストーラを開くには、setup.exe ファイルを右クリックして、管理者としてファイルを実行します。

注記

Windows のユーザーアカウント制御（UAC）をオンにしている場合は、作業の続行を明示的に確認しなければなりません。



3 スタート画面で **OpenLab CDS** を選択し、［**OK**］をクリックします。



4 ［**プラン**］タブから、［**System Preparation Tool**］を選択します。



［**System Preparation Tool**］ウィンドウが開きます。

5 システムに対応する製品の構成を選択します。

AIC の場合：

- **OpenLab CDS~2.7~AIC~Win10**
- **OpenLab CDS~2.7~AIC~Win11**
- **OpenLab CDS~2.7~AIC~Win2016**
- **OpenLab CDS~2.7~AIC~Win2019**

クライアントの場合：

- **OpenLab (CDS, ECMXT)~2.7~(Client, CMServices)~Win10**
- **OpenLab (CDS, ECMXT)~2.7~(Client, CMServices)~Win11**
- **OpenLab (CDS, ECMXT)~2.7~(Client, CMServices)~Win2016**
- **OpenLab (CDS, ECMXT)~2.7~(Client, CMServices)~Win2019**

注記

オペレーティングシステムとして *Windows Server 2022* を使用する場合、代わりに適切な *Win2019* プロダクトコンフィグレーションを選択してください。たとえば、OpenLab CDS 2.7 AIC を Windows Server 2022 にインストールする場合、 **OpenLab CDS~2.7~AIC~Win2019** を選択します。

［続行］をクリックします。インストーラが必須の Windows 設定をすべて自動的に適用して確実にインストールを実行します。

6 システムに適用する推奨設定を選択します。

システムのパフォーマンスと安定性を向上できる複数の推奨設定がありますが、アプリケーションを展開するのに完了させる必要はありません。必須設定の後に推奨設定が表示されます。

推奨設定のチェックボックスをオフにすることができます。必須設定はオフにできません。推奨アクションがデフォルトで選択されており、オフにしないとこれらのアクションが適用されます。

7 **［修正の適用］**をクリックして正しい設定を適用します。

System Preparation Tool により選択した設定が更新され、新しいステータスが**［コンフィグレーションの更新］**ページに表示されます。すべてのアクションがログファイルに保存されます。ログファイルへのリンクがページの下部にあります。

8 ［次へ］をクリックして［**SYSTEM PREPARATION レポート**］ページへ進みます。

System Preparation レポートが表示されます。選択したすべての設定の新しいステータスが一覧表示されます。

System Preparation レポートがディスクに保存されます。ページの上部に保存場所が表示されます。

9 ［**レポートの印刷**］をクリックしてSystem Preparation レポートを印刷します。

Adobe PDF プリンタを使用してファイルなどに出力したり、コメントを追加したりできます。

10 SYSTEM PREPARATION レポートには、System Preparation Tool によって自動的に更新されない必須設定や推奨設定が表示されます。SYSTEM PREPARATION レポートの**必要な操作**セクションで指定された指示に従って、オペレーティングシステムの設定を手動で更新します。

インターネットに接続していない場合は、.NET 3.5 を手動でインストールしてください（「.NET 3.5 および 4.x Framework のインストール」 11 ページを参照）

11 ［**完了**］をクリックします。

12 要求された場合はシステムを再起動します。

2 OpenLab CDS のインストール

インストールワークフローの概要 19
インストールの準備 21
OpenLab Server のインストール 21
OpenLab CDS のインストール（クライアントまたは機器コントローラ） 22
Sample Scheduler for OpenLab 26
ターミナルサーバー上での CDS クライアントのインストール 27
サイレントインストール 28
プロパティファイルのエクスポート 28
サイレントインストールの実行 29
パラメータおよびリターンコード 30
ログおよびトレース 32
ドライバーソフトウェアのインストールまたはアップグレード 33

この章では、クライアント/サーバー環境での OpenLab CDS ソフトウェアのインストールについて説明します。

インストールワークフローの概要

注記

クラウドを導入するか決定してください。その場合、Agilent の担当者に確認するか、Agilent Software Service Desk（**https://servicedesk.li.agilent.com/plugins/servlet/desk**）にあるマニュアル『OpenLab CDS Configuration in the Cloud 』を参照してください。

OpenLab Server のインストール

1.Windows オペレーティングシステムを設定
2.OpenLab Server をインストール（Content Management を含む）
3.ソフトウェアベリフィケーションの起動

OpenLab Server または OpenLab ECM XT により提供される Content Management コンポーネントを使用する場合は、『Agilent OpenLab Server および OpenLab ECM XT インストールガイド』を参照してください。
既存の ECM 3.X システムにデータを保存する場合は、『Configuring OpenLab CDS with ECM 3.x』ガイドを参照してください。

▽

準備

- OpenLab CDS クライアント/サーバーシステムの要件およびサポートされる機器を確認
- System Preparation Tool を実行
- Windows の設定（マニュアル）

インストール時の再起動を減らすか回避するため、インストールを開始する前に System Preparation Tool を実行することをお奨めします。
「System Preparation Tool の実行」 14 ページを参照してください。
スクリプトを使用してインストールする場合は、「サイレントインストール」 28 ページを参照してください。

▽

クライアントおよび AIC のインストール

1.AIC およびクライアント上で
OpenLab CDS をインストール
2.インストール後に
ソフトウェアベリフィケーション
集中管理された出力先の準備
3.オプション設定
オフラインマシン上での
パフォーマンスの向上
アドオンをインストール

クライアントをインストールする前に、まず AIC をインストールすることを推奨します。

- 「OpenLab CDS のインストール（クライアントまたは機器コントローラ）」 22 ページを参照してください。
- 「インストール後のタスク」 35 ページを参照してください。
- 「オプションの手順」 48 ページを参照してください。



ライセンスの取得

1.SubscribeNet からライセンスを取得:
- OpenLab CDS
- 機器製品
- アドオン

2.ライセンスをインストール

「ライセンス」 52 ページを参照してください。



コンフィグレーション

- 認証の設定
- プロジェクトの設定
（監査証跡設定を含む）
- 機器の設定

「OpenLab CDS の設定」 60 ページを参照してください。
すべてのコンフィグレーションタスクはコントロールパネルで実行します。詳細については、「OpenLab Help & Learning」の「コントロールパネル」セクションを参照してください。

インストールの準備

1 インストールを行う間は、ウイルス対策ソフトウェアを無効にしてください。
2 インストール中は Windows Update サービスを実行しないでください。インストール中に Windows 更新プログラムが実行されないようにします。
3 システムの再起動が保留となっていないことを確かめてください。

   す（「System Preparation Tool の実行」 14 ページを参照してください）。
4 必要なすべてのポートが OpenLab CDS によって使用できることを確認します。詳細については、『要件とサポートする機器 ワークステーション、クライアント、および機器コントローラ』ガイド（CDS_v2.7_Requirements_ja.pdf）を参照してください。
5 .NET パイプ通信が OpenLab コンポーネント間で許可されていることを確認します。

OpenLab Server のインストール

OpenLab Server または OpenLab ECM XT により提供される Content Management コンポーネントを使用する場合は、『Agilent OpenLab Server および OpenLab ECM XT インストールガイド』（ECM_XT_v2.7_InstallationGuide_ja.pdf）を参照してください。

既存の ECM 3.X システムにデータを保存する場合は、『Configuring OpenLab CDS with ECM 3.x』ガイド（CDS_v2.7_configure-with-ECM_ja.pdf）を参照してください。

OpenLab CDS のインストール（クライアントまたは機器コントローラ）

この手順では、クライアントまたは分析機器コントローラ（AIC）への OpenLab CDS ソフトウェアのインストールについて説明します。各クライアント PC および各 AIC マシン上でこの手順を実行してください。

OpenLab CDS クライアントから AIC への変換はサポートされていません。この場合、適切なフェイルオーバー操作を行えるようにするには、既存の OpenLab CDS インスタンスをアンインストールし、AIC として再インストールする必要があります。

必須要件

OpenLab Server がすでにインストールされており、お使いのネットワークで利用できること。

クライアントおよび AIC の OpenLab CDS バージョンが OpenLab Server のバージョンより上位であってはなりません。

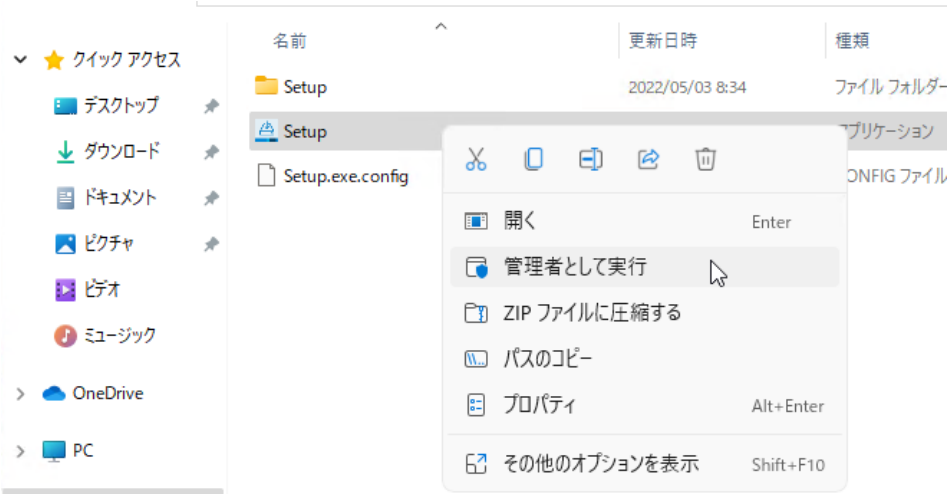
Windows Server 2022 をオペレーティングシステムとして使用する場合：

- インストールの前に System Preparation Tool を実行する必要があります（「System Preparation Tool の実行」 14 ページ）。
- OpenLab CDS 2.7 Update 06 以降をインストールする必要があります。

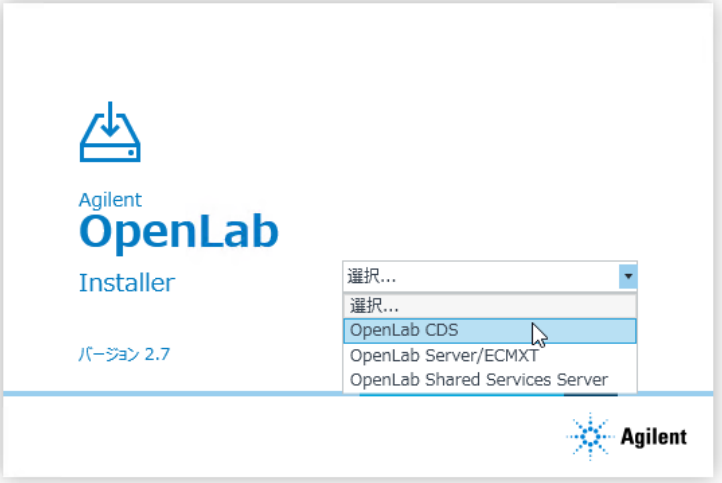
注記

スケーラブルシステムにインストールされたクライアントは、インストール時に仮想ホスト（一般的に、ロードバランサーの構成されたホスト名）に接続する必要があります。

1 インストーラを開くには、setup.exe ファイルを右クリックして、管理者としてファイルを実行します。



2 スタート画面で **OpenLab CDS** を選択し、 **[OK]** をクリックします。



3 ［**インストール**］タブで、インストールする種類に応じて、［**クライアント**］または［**機器コントローラ**］をクリックします。



4 **使用許諾契約書**：Agilent の使用許諾条件を読んで確認します。

5 **インストールフォルダー**：OpenLab CDS のインストールフォルダーを指定します。ドライブのルートフォルダーは使用しないでください。

6 **ストレージの設定**（機器コントローラをインストールする場合）：フェイルオーバーモードの時にプロジェクトデータを保存するためのプロジェクトルートパスを指定してください。

7 **サーバー情報**：接続する Shared Services サーバーのホスト名を入力し、［**接続**］をクリックしてください。機器コントローラをインストールする場合、指定したサーバーの OpenLab コントロールパネル管理者のログイン資格情報を入力してください。

8 **システム準備**：システムの推奨設定のリストがインストーラに表示されます。システムに適用する必要のない項目のチェックボックスをオフにすることができます。必須設定はインストール時に自動的に適用されます。必須設定と推奨設定の概要は、『OpenLab CDS ワークステーション、クライアント、および機器コントローラ 要件とサポートする機器』ガイド（CDS_v2.7_Requirements_ja.pdf）の「System Preparation Tool」の章を参照してください。

［**次へ**］をクリックして［**レビュー**］ページへ進みます。設定はインストールの一環として適用されます。

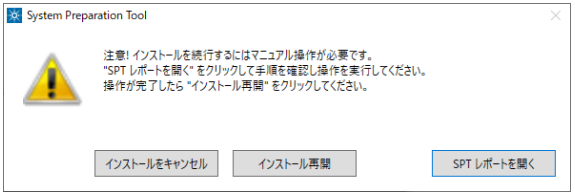
注記

オペレーティングシステムとして Windows Server 2022 を使用する場合、System Preparation Tool は実行されません。エラーメッセージを確認してステップをスキップします。インストールの前にツールを実行した場合はメッセージを無視できます。

9 レビュー：インストールされるすべてのコンポーネントと、適用されるすべての設定がここに表示されます。

- 今後サイレントインストールを行えるようにプロパティファイルを保存するには（「サイレントインストール」 28 ページを参照）、**［コンフィグファイルに保存］**をクリックします。
- **［インストール］**をクリックしてインストールを開始します。

10 インストール前に手動で操作する必要がある場合、警告が表示されます。



続行するオプション

- **推奨設定**：**［SPT レポートを開く］**をクリックすると、必要な操作を完了させる指示が表示されます。レポートの**［必要な操作］**セクションを確認します。操作が完了したら、**［インストール再開］**をクリックします。
- **インストールをキャンセル**：インストールが中断されます。必要な更新を行ってインストールを再開します。
- **インストール再開**：設定が適用されていない場合でも、ダイアログが閉じ CDS コンポーネントのインストールが続行されます。必要に応じて、インストールが完了した後に設定を更新できます。

11 インストール：インストールが完了したら、**［次へ］**をクリックします。

12 完了：

- 適用されたWindows設定のレポートを表示するには、**［システム準備］**の下のリンクをクリックします。設定を手動で適用する必要がある場合、警告が表示されます。リンクされたレポートに詳細が表示されます。

- すべてが正しくインストールされたことを確認するには、**［ソフトウェアベリフィケーションの起動］**をクリックします。[1]
- インストールを完了するには、**［コンピュータを再起動］**チェックボックスをオンにし、**［完了］**をクリックします。

13 インストール中にエラーが発生した場合：C:¥ProgramData¥Agilent¥InstallLogs¥<date and time>にあるインストールログファイルを確認します。ProgramData は非表示のフォルダーです。

OpenLab CDS バージョン 2.5 以降では、CDS クライアントのインストール終了時に CDS アプリケーションの登録は行われません。規制環境でソフトウェアをご使用のお客様には、以下のことを推奨します。

- 少なくとも **1 台の分析機器コントローラ（AIC）**をインストールしてから CDS クライアントの運転時適格性評価（OQ）を実行してください。

  あるいは、
- AIC なしのコンフィグレーションは、最初の CDS クライアントをインストールしてから OpenLab コンフィグレーションツールを実行します（「サーバーへのクライアントまたは機器コントローラの登録」 96 ページを参照してください）。

インストールには、標準の機器接続セットが含まれます。他の機器ドライバーソフトウェアが必要な場合は、別途インストールしてください。「ドライバーソフトウェアのインストールまたはアップグレード」 33 ページを参照してください。

Sample Scheduler for OpenLab

OpenLab CDS バージョン 2.6 では、Sample Scheduler for OpenLab は OpenLab CDS クライアント/サーバーインストール時にデフォルトでインストールされます。2.6 以降へのアップグレード後は、以下のコンポーネントがクライアント/サーバーのトポロジーで利用できます。

- サーバー：Sample Scheduler Database（データリポジトリの一部）、LIMS Agent、Web Server
- 機器コントローラ：Sample Scheduler Agent
- クライアント：Sample Scheduler Client、Sample Scheduler Configuration

インストール後の Sample Scheduler サービスは無効になっています。スタートメニューの **［Agilent Technologies］** > **［Agilent Sample Scheduler］**か

[1] このツールを後で別に起動するには、**［スタート］** > **［Agilent Technologies］** > **［Software Verification Tool］**を選択します。

ら Sample Scheduler for OpenLab をお試しいただけます。**［無償のダッシュボードを開く（Access free dashboard）］**をクリックし、指示に従います。または、OpenLab CDS Acquisition で**［Sample Scheduler］**ボタンをクリックしてください。

Sample Scheduler を定期的に使用する場合や、より多くの機能を評価したい場合は、最初にアクティブ化してください。アクティブ化の詳細については、表示される情報ページを参照してください。

測定クライアントから Sample Scheduler ボタンを削除するには、「Sample Scheduler ボタンを OpenLab CDS Acquisition から削除」 104 ページを参照してください。

ターミナルサーバー上での CDS クライアントのインストール

1 ターミナルサーバーを設定します。
2 「OpenLab CDS のインストール（クライアントまたは機器コントローラ）」 22 ページの説明に従って CDS クライアントをインストールします。
3 ターミナルサーバーの設定から**コントロールパネル** RemoteApp プログラムを発行します。
4 シンクライアントから、ターミナルサーバーの発行済みリンクにアクセスします。

サイレントインストール

OpenLab CDS では、インストールのコマンドラインモード（サイレントインストール参照）をサポートしています。このモードは、インストール、アップグレード、アンインストールをサポートしています。サイレントインストールは手動、または LANDesk や HP CM などのソフトウェア管理システムの一部として実行できます。

プロパティファイルのエクスポート

OpenLab インストーラでは、インストールパラメータをプロパティファイルへエクスポートし、サイレントインストールで使えるようにする機能をサポートしています。

1 OpenLab インストーラを起動します。

2 ウィザードの指示に従います。

3 **［レビュー］**画面に達したら、**［コンフィグファイルに保存］**をクリックします。

ファイルを適切なロケーションに保存します。ファイルは自動的に .properties ファイルとして保存されます。

サイレントインストールに、プロパティファイルを使用できるようになりました。

サイレントインストールの実行

必須要件

- サイレントインストール用のプロパティファイルが作成されている。「プロパティファイルのエクスポート」 28 ページを参照してください。
- .Net Framework がシステムにある。

  システムにない場合は、自動的にインストールします。次に、マニュアルで **［承認］**を選択して、使用許諾契約書に同意する必要があります。

クライアントまたは AIC 上でのアプリケーションのインストール

1. USB メディアのコンテンツを共有フォルダーにコピーします。
2. プロパティファイルを CDSInstaller.exeと同じディレクトリにコピーします。
3. コマンドプロンプトまたは Power shell プロンプトの実行可能ファイルを右クリックし、管理者として実行します。
4. インストールファイルを保存したロケーションに移動します。

   例：C:¥CDS
5. インストールを開始するには、次の構文で CDSInstaller.exe を呼び出します。**CDSInstaller.exe -s -config <PropertiesFile>**

   例：

   CDSInstaller.exe -s -config Silent.Properties

   このコマンドでは、ユーザーインターフェイスなしで OpenLab インストーラを起動します。
6. インストールには約 5 分かかります。インストールのプロセスをチェックするには、%ProgramData%¥Agilent¥InstallLogsにあるログファイルを確認してください。

   必要なインストールファイルが不足している場合、OpenLab インストーラはログファイルにエントリを作成します。コンポーネントのタイプに応じて、インストールを続行またはロールバックします。このような状況では、エラーコードが返されます。
7. インストールが終了したら、PC を再起動します。

サーバー上での AIC の登録

1 所定のパラメータで registercds.exe を呼び出します。

たとえば、server01 という名前のサーバー上で、ドメイン domain01 のユーザー名 admin 、パスワード admin で AIC を登録します。

```
registercds.exe -registerapp -regaic -olssserver="server01"
-olssuser="admin" -olsspw="admin" -olssdomain="domain01"
-log="C:¥temp¥log.log"
```

パラメータおよびリターンコード

パラメータ

コマンドラインモードで CDSInstaller.exe を呼び出すときに、以下のパラメータを使用します。

- **-s**

  サイレントモード - ユーザーインターフェイスは表示されません。

- **-config**

  コンフィグレーションファイル - プロパティファイルにすべてのパラメータが含まれます。

- **<PropertiesFile>**

  プロパティファイルには、インストーラに必要なすべての入力データが含まれます。<PropertiesFile> は、正しいファイルパスおよびファイル名に変更してください。ファイルは CDSInstaller.exeと同じディレクトリに格納されている必要があります。

- **-ExcludeHelpSystemCP=true**

  インストール時に OpenLab Help & Learning パッケージを除外できます。注記：OpenLab Help & Learning パッケージをインストールしないと、ソフトウェアからのヘルプは利用できません。ただし、以下から OpenLab Help & Learning（オンラインヘルプおよびマニュアル）にアクセスできます。**https://openlab.help.agilent.com**。

- **-uninstall**

  現在インストールされている CDS をアンインストールします。

コマンドラインモードで registercds.exe を呼び出すときに、以下のパラメータを使用します。

- **-registerapp**

  サーバーに OpenLab CDS ソフトウェアを登録します。これにより、権限、権限グループ、およびロールが追加されます。アクティビティログが有効になり、RecoveryData フォルダー構造が作成され、ファイアウォールの例外が追加されます。

- **-regaic**

  マシンをAIC として登録します。これにより、マシンの名前、ホスト名、ポート、および説明がサーバー上の AIC のリストに追加されます。また、インストール済みドライバが登録され、機器アイコンが登録され、複数機器用のサポートが追加されます。

- **-olssserver="nameOfServer"**

  指定されたサーバーに接続し、デフォルト接続を設定します。

- **-olssuser="nameOfUser"**

  -olssserver フラグにより指定された OLSS サーバーに接続するためのユーザー名

- **-olsspw="password"**

  -olssserver フラグにより指定された OLSS サーバーに接続するためのパスワード

- **-olssdomain="nameOfDomain"**

  -olssserver フラグにより指定された OLSS サーバーに接続するユーザーのドメイン

- **-log="PathAndNameToLogfile"**

  ツールによって実行されたアクションを記録します。

- **-ExcludeHelpSystemCP=true**

  インストール時に OpenLab Help & Learning パッケージを除外できます。注記：OpenLab Help & Learning パッケージをインストールしないと、ソフトウェアからのヘルプは利用できません。ただし、以下から OpenLab Help & Learning（オンラインヘルプおよびマニュアル）にアクセスできます。**https://openlab.help.agilent.com**。

コマンドラインモードで setup.exe **を呼び出すときは、以下のパラメータを使用します。**

- **/RunSpt=no**

  システム準備（SPT）をスキップできます。

リターンコード

コマンドラインモードでインストール、アンインストール、またはアップグレードを行うと、システムから以下の数値コードが返されます。

表 2　リターンコード

エラー/リターンコード	戻り値
成功。ログファイルですべての情報を見ることができます。	0
再起動が必要。再起動後にインストールコマンドを再度実行する必要があります。	3010 1641 350
失敗。失敗した内容をログファイルで確認してください。	その他の数値

ログおよびトレース

すべての例外、エラー、情報メッセージがC:¥ProgramData¥Agilent¥Install-Logs¥<date and time>にログされます。ProgramData は非表示のフォルダーです。

ドライバーソフトウェアのインストールまたはアップグレード

以下のドライバーソフトウェアパッケージは、OpenLab CDSと共に自動的にインストールおよびコンフィグレーションされます。詳細については、『ワークステーション、クライアント、および機器コントローラ 要件とサポートする機器』ガイド（CDS_v2.7_Requirements_ja.pdf）の)「機器に関する情報」の章を参照してください。

- Agilent GC および GC/MS
- Agilent LC および LC/MS
- Agilent 35900 A/D
- Agilent SS420x
- Agilent Data Player (Virtual Instruments)

その他の機器ドライバーソフトウェアやアドオンソフトウェア、既存のドライバーソフトウェアのアップグレードは、マニュアルでインストールおよびコンフィグレーションする必要があります。機器ドライバーソフトウェアおよびアドオンソフトウェアは、インストールメディアの Setup¥Packages¥Add-Ons フォルダーにあります。

Agilent の最新のドライバーが SubscribeNet で入手できます。製品リストで、**［OpenLab Software］** > **［OpenLab Agilent Instrument Drivers］**を選択します。

分析機器コントローラ（AIC）上

1 ドライバーのインストーラパッケージを実行し、インストールウィザードに従います。

インストールまたはアップグレード手順の詳細については、各ドライバーのマニュアルを参照してください。

2 サーバーに新しいドライバーを登録します。この手順は、サーバーへの既存の OpenLab PC のクライアントまたは AIC としての登録と同じです。「サーバーへのクライアントまたは機器コントローラの登録」 96 ページを参照してください。

新しい機器タイプがコントロールパネルで使用できるようになります。

注記

どちらの手順もサイレントインストールによって選択的に実行することができます。詳細については、「サイレントインストールの実行」29ページを参照してください。

関連クライアント上

1 機器にアクセスする各クライアントでインストーラパッケージを実行します。

3 インストール後のタスク

ソフトウェアインストール後のソフトウェアベリフィケーション 36
集中管理された出力先の準備 37
出力先フォルダーのトラブルシューティング 38
自動解析中のネットワーク共有へのエクスポートを準備 40
ネットワークプリンターの自動印刷を有効 43
ウィルス対策プログラムの設定 44

この章では、インストール終了後に行うタスクについて説明します。

ソフトウェアインストール後のソフトウェアベリフィケーション

ソフトウェアベリフィケーションツール（SVT）では、使用するシステムが正しく構築およびインストールされ、設計仕様通りになっていることを示す文書が提供されます。インストールの終了時にソフトウェアベリフィケーションが正常に実行されている場合、再度実行する必要はありません。

1 Windows オペレーティングシステムを使用して、［**スタート**］ > ［**Agilent Technologies**］ > ［**Software Verification Tool**］を選択します。

2 検証するコンポーネントを選択します。

3 ［**Qualify**］を選択します。

アプリケーションが実行され、ソフトウェアベリフィケーションレポートが作成されます。C:¥SVReports にレポートが自動的に保存されます。

4 レポートに不合格と表示されている場合、コンピューターの要件を確認し、データシステムを再インストールしてください。

ソフトウェアベリフィケーションレポートの結果が「合格」となるまで、システムを使用しないでください。

集中管理された出力先の準備

OpenLab CDS では、データ解析を開かずに、測定時にデータを自動的に解析することができます。測定時の解析中に、注入レポートの印刷が必要になる場合があります。集中管理された出力先では、これらのレポートが共有出力先フォルダーにコピーされます。次に、FolderMill などのサードパーティ製のプログラムが共有フォルダーにアクセスし、フォルダー内のファイルをプリンターへ送信します。

クライアント/サーバーシステムでは、共有出力先フォルダーをサーバーまたは別のマシン上に配置できます。サードパーティ製の印刷プログラムを共有出力先フォルダーと同じマシンにインストールしてください。

OpenLab Server 上：

1 Microsoft コントロールパネルで［**すべてのコントロールパネル項目**］> ［**管理ツール**］へ移動し、［**サービス**］をダブルクリックします。

2 ［**Agilent OpenLab Copy To Server**］を右クリックし、［**プロパティ**］を選択します。

3 ［**ログオン**］タブをクリックし、［**アカウント**］を選択し、ドメインユーザーのログイン資格情報を入力します。このサービスユーザーは、サーバーのローカル管理者グループのメンバーにしてください。さらに、ユーザーが出力先フォルダーへの書き込み権限を持っている必要があります。

4 設定を確認して、サービスを再起動します。

5 オプション：キューのサイズを設定します。

出力先フォルダーごとにキューのサイズが異なります。各々のキューのサイズは、コンフィグレーションファイル **C:¥ProgramData¥Agilent¥CopyToServer¥CacheSizeLimit.ini** で定義します。パラメータ **CacheSizeLimit** でキューのサイズを変更することが可能です。

デフォルト値は 500 MB で、各キュー（出力先フォルダー）のサイズはデフォルトでは 500 MB に制限されます。キャッシュの最大サイズに達するまで、ファイルがキューに入ります。最大サイズに達すると、キューはリクエストの受け入れを停止します。キューはクリアされた後、自動的に再起動してリクエストの受け入れを開始します。

クライアントまたは AIC 上

1 OpenLab コントロールパネルの［**管理**］ > ［**出力先フォルダー**］で共有された出力先フォルダーを設定します。

   a ［**出力先フォルダーの追加**］をクリックします。

   b 名前、フォルダーパス（UNC 形式）、説明（オプション）を入力し、［**保存**］をクリックします。

2 複数の出力先フォルダーを設定する場合、希望の出力先フォルダーを選択し、［**デフォルトの出力先フォルダーの設定**］をクリックすると、特定のフォルダーをデフォルトとして指定できます。

出力先フォルダーのトラブルシューティング

問題	解決策
Agilent OpenLab CopyTo Client または **Agilent OpenLab CopyTo Server** サービスがクラッシュした	サービスは自動的に再起動します。
クライアント/AIC とサーバー間のネットワークの問題	出力要求がクライアント上でバッファされ、ネットワークが回復するとサーバーへ自動的に再送信されます。
サーバーと出力先フォルダー間のネットワークの問題	出力要求がサーバー上でバッファされます。ネットワークが回復すると、ファイルは出力先フォルダーへ自動的にコピーされます。
サーバーがダウンしている	出力要求がクライアント上でバッファされ、ネットワークが回復するとサーバーへ自動的に再送信されます。
出力先フォルダーのキャッシュがいっぱいになっている	出力先フォルダーのアクセスを確認してください。キャッシュサイズを増やすことを検討してください（「集中管理された出力先の準備」 37 ページを参照）。

問題	解決策
権限が不十分なため出力先フォルダーにアクセスできない	**Agilent OpenLab CopyTo Server** サービスにログインしたドメインユーザーがローカル管理者で、出力先フォルダーに書き込む権限を持っていることを確認してください。
レポートが出力先フォルダーでスタックしている	プリント用の出力先フォルダーへのアクセスに使用されているサードパーティ製のソフトウェアが正しく機能していることを確認してください。プリンターエラーが発生していないことを確認してください。

自動解析中のネットワーク共有へのエクスポートを準備

以下を行う場合は、次の手順を実行してください。

- 自動解析中にレポートを作成し、ファイルとして保存する。ネットワーク共有へのレポートのエクスポートは、レポートを外部システム（LIMS など）へ送信する一般的な方法です。
- 自動解析中に生データや結果をエクスポートし、ネットワーク共有にファイルを保存する。

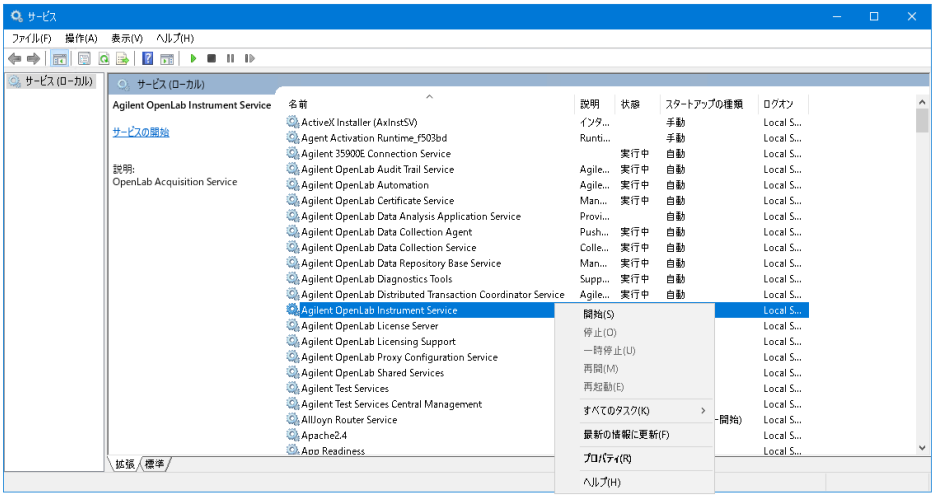
この方法は、ネットワーク共有にアクセスしてサービスとしてログオンするための特定のドメインユーザー権限が必要です。

AIC 上でドメインユーザーアカウントを設定

1 AIC でローカル管理権限を持つ Windows ドメインユーザーとしてログインします。

2 Microsoft コントロールパネルで［**すべてのコントロールパネル項目**］> ［**管理ツール**］へ移動し、［**サービス**］をダブルクリックします。［**Agilent OpenLab Instrument Service**］のステータスが［**開始**］または［**実行中**］になっていることを確認します。停止している場合は、右クリックし［**開始**］を選択します。

3 ［Agilent OpenLab Instrument Service］を右クリックし、［プロパティ］を選択します。



4 ［ログオン］タブで ［アカウント］を選択し、ネットワーク印刷権限を持つドメインユーザーのログイン資格情報を入力します。

注記

ユーザーが AIC のローカル管理者グループのメンバーである必要があります。

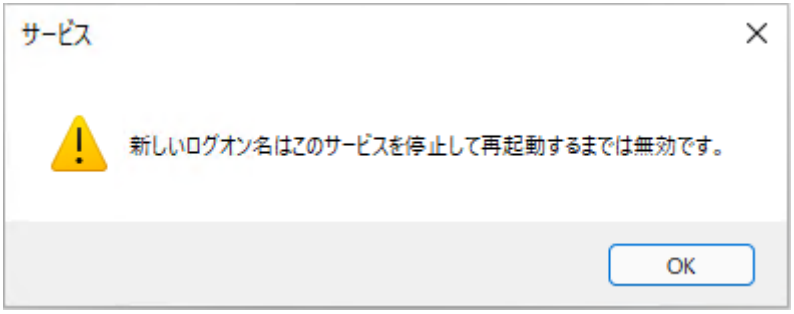
［OK］をクリックします。



5 ［サービス］ウィンドウで、アカウントに**サービスとしてログオン**権限が正しく付与されたことが確認されます。 ［OK］をクリックします。



6 ［サービス］ウィンドウで［OK］をクリックして、**サービスを終了して再起動するまで新しいログオン名は有効にならない**ことを確認します。



7 PC を再起動します。これにより、Instrument Service で指定した**ログオン**ユーザーが、データ測定でファイルを自動的にネットワーク共有へエクスポートできるようになります。

ネットワークプリンターの自動印刷を有効

出力先フォルダーを使用せず、自動解析中にネットワークプリンターで印刷する必要がある場合は、この手順に従ってください。

必須要件 ドメインユーザーアカウントが設定済みである。（「自動解析中のネットワーク共有へのエクスポートを準備」 40 ページを参照）。

AIC 上：

1 ［Agilent OpenLab Instrument Service］ のプロパティウィンドウの［**ログオン**］タブで指定したドメインユーザーアカウントを使用してログインします。

2 ［**コントロールパネル**］ > ［**すべてのコントロールパネル項目**］ > ［**デバイスとプリンター**］へ移動し、［**プリンターの追加**］をクリックします。

3 ［**Bluetooth、ワイヤレス、またはネットワーク検出可能プリンターを追加する**］を選択し、追加する共有プリンター名を参照または入力します。プリンターが追加されたら、テストページを印刷します。

4 Windows のプリンター設定で、共有プリンターをローカルの通常使うプリンターに設定します。

ウィルス対策プログラムの設定

1 『ワークステーション、クライアント、および機器コントローラ 要件とサポートする機器』ガイド（CDS_v2.7_Requirements_ja.pdf）の「ファイアウォールの設定」に記載されたファイアウォールポートを必ず開いてください。

2 以下のフォルダーをウィルス対策スキャンから除外する必要があります。これらのフォルダーをスキャンする場合は、システムが測定中やデータ解析中でないときに実行してください。スキャンによって動作が遅くなったり、AV プログラムと CDS アプリケーションが同じファイルへ同時アクセスすることで分析が中断されたりすることがあるためです。

   - C:¥DsData¥DsArchive
   - C:¥DsData¥DsContent
   - C:¥DsData¥DsIndex
   - C:¥Program Files (x86)¥Agilent Technologies
   - C:¥ProgramData¥Agilent
   - C:¥ProgramData¥Agilent IPB Files
   - C:¥ProgramData¥Agilent Technologies
   - C:¥ProgramData¥ChromatographySystem
   - C:¥ProgramData¥Firebird
   - C:¥ProgramData¥IsolatedStorage

   除外するフォルダーの設定方法は、使用しているウィルス対策ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

注記

ネットワーク不正浸入防止機能付きのウィルス対策ソフトウェアの場合、一般的なシステムパフォーマンスが多少低下することを想定してください。ネットワーク不正浸入防止機能を無効にするには、使用しているウィルス対策ソフトウェアの説明を参照してください。

Trend Micro™ ウィルス対策ソフトウェアの設定

OpenLab CDS は、他のウィルス対策プログラムとも併用できます。Trend Micro™ を使用する場合、システムパフォーマンスを最適化するために以下の設定を推奨します。

1 使用している Trend Micro のバージョンに［**Web レピュテーション**］がある場合：パフォーマンス向上のためには、オフにします。

［Web レピュテーション］をオフにすると、ブラウジングを通したマシンのWebトラフィックがチェックされないというリスクがあります。

ゲートウェイレベル上に別の URL/Web スキャナを設定してエンドポイントを保護するか、エンドポイントからインターネットへのアクセスを制限してください。大部分の感染はインターネット Web サイトに由来するため、これらのマシンからアクセスすべきではありません。

2 **リアルタイムスキャン**：除外対象を追加し、スキャンを［**作成、変更、または取得されるファイル**］から［**作成または変更されるファイル**］へ変更します。

除外すると Agilent Technologies の作業ディレクトリはスキャンされないため、パフォーマンスが向上します。

このマシン上で作成または変更されたファイルしかスキャンされないリスクがあります。アクセスしただけのファイルは省略されます。作成時またはマシンへの書き込み時に、気付かずに感染してしまった潜伏ファイルはスキャンされません。

スキャンスケジュールを毎日に増やし、マシン上のすべてのファイルについて感染や潜伏を確認してください。

3 **動作の監視**：以下のプログラムリストを［**承認済みプログラム**］に追加します。

- OpenLab¥Services¥Distributed Transaction Coordinator Service¥Agilent.OpenLab.DistributedTransactionCoordinator.Rest.exe
- OpenLab Backup Utility¥Monitoring Service¥Agilent.OpenLab.BackupRestore.BackupMonitoringService.exe
- OpenLab Backup Utility¥Notification Service¥Agilent.OpenLab.BackupRestore.NotificationService.exe
- OpenLab Backup Utility¥Task Status Cache Service¥Agilent.OpenLab.BackupRestore.TaskStatusCacheService.exe
- OpenLab¥Services¥Electronic Signature Service¥Agilent.OpenLab.ESignature.Rest.exe

- OpenLab Acquisition¥Agilent.OpenLab.Acquisition.AcqInstrumentService.exe
- OpenLab Acquisition¥Agilent.OpenLab.AcquisitionClient.exe
- OpenLab Data Analysis¥Bin¥Agilent.Chromatography.DataAnalysis.Processing.ProcessingServer.exe
- OpenLab Data Analysis¥Bin¥Agilent.Chromatography.DataAnalysis.UI.CustomCalculationDesigner.exe
- OpenLab Data Analysis¥Bin¥Agilent.OpenLab.DataAnalysis.exe
- OpenLab Data Analysis¥Bin¥Agilent.OpenLab.DataAnalysis.Api.ApplicationService.exe
- OpenLab Data Analysis¥Bin¥Reporting¥Agilent.OpenLab.Reporting.RdlDescriptor.exe
- OpenLab Data Analysis¥Bin¥Reporting¥Agilent.OpenLab.Reporting.RdlDescriptorContextMenu.exe
- OpenLab Data Analysis¥Bin¥Reporting¥IntelligentReporting.RenderServiceHost.exe
- OpenLab Data Analysis¥Bin¥Reporting¥TemplateDocumentation.exe
- OpenLab Platform¥Data Repository¥Data Repository¥Base¥BaseService¥Agilent.OpenLab.DR.BaseService.exe
- OpenLab Reverse Proxy Configuration Service¥ConfigurationService¥Agilent.OpenLab.ReverseProxy.ConfigurationService.exe
- OpenLab Services¥Distributed Transaction Coordinator Service¥RegistrationTool¥Agilent.OpenLab.DataRepository.RegistrationTool.exe
- OpenLab Services¥Automation¥AutomationServerHost.exe
- OpenLab Services¥Diagnostics¥DiagnosticsToolsServiceHost.exe
- OpenLab Services¥Licensing¥Flexera¥lmadmin.exe
- OpenLab Services¥Licensing¥Licensing.Service.Host.exe
- OpenLab Services¥Server¥SharedServicesHost.exe
- OpenLab Services¥UI¥Agilent.OpenLab.ControlPanel.exe
- Test Services¥Agilent.TestServices.WebService.exe
- Test Services¥Central Management Service¥Agilent.TestServices.Server.Main.exe

C:¥Program Files (x86)¥Agilent Technologies¥...

除外したファイルが感染しても検出されないリスクがあります。これらのファイルをカバーするには、毎日スキャンが実行されるようにします。

4 **リアルタイムモニタリング**：以下のフォルダーをリアルタイムモニタリング設定の除外リストに追加します。

C:¥Program Files (x86)¥Agilent Technologies¥

4 オプションの手順

OpenLab Help & Learning のみインストール 49
オフラインマシン上でのパフォーマンスの向上 50
NIST ライブラリ検索の設定 51

この章では、追加のソフトウェアのインストールやアップグレードについて説明します。OpenLab Help & Learning のみのインストールや、オフラインマシン上でのパフォーマンス向上に関する情報も記載しています。

OpenLab Help & Learning のみインストール

OpenLab CDS アプリケーションをインストールせずに OpenLab Help & Learning コンテンツをインストールするには、このオプションを使用します。

OpenLab CDS がインストールされているか、インストールする予定のマシン上ではこのオプションを使用しないでください。

1 USB メディアを挿入し、setup.exe ファイルを右クリックして、管理者としてファイルを実行します。
2 スタート画面で **OpenLab CDS** を選択し、 **[OK]** をクリックします。
3 OpenLab CDS インストーラの **［インストール］** をクリックします。
4 **［OpenLab Help and Learning のみ］** をクリックします。
5 言語を選択し、 **［次へ］** をクリックします。
6 **［使用許諾契約書］** ページの使用許諾条件に同意し、 **［次へ］** をクリックします。
7 インストールディレクトリを確認します。異なるディレクトリを指定する場合は **［変更...］** をクリックします。
8 **［インストール］** をクリックします。
9 インストールが完了したら **［完了］** をクリックします。

インストーラの同じリンクから OpenLab Help & Learning をアンインストールまたは修復できます（「OpenLab Help & Learning のみのアンインストール」 102 ページ を参照）。

オフラインマシン上でのパフォーマンスの向上

OpenLab CDS　を実行するコンピューターは、インターネットに接続されていないとパフォーマンスが低下する場合があります。

この問題を解決するには、すべてのワークステーション、クライアント、AIC、およびサーバー上で以下のシステム設定を行ってください。

1 Windows の設定で、**［インターネット オプション］**を検索します。**［インターネットのプロパティ］**ダイアログが表示されます。**［詳細設定］**タブで、以下のチェックボックスをオフにします。
   - **［セキュリティ］** > **［発行元証明書の取り消しを確認する］**
   - **［セキュリティ］** > **［サーバーの証明書失効を確認する］**
2 以下のレジストリキーを変更または追加します。
   - [HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Policies¥Microsoft¥SystemCertificates¥AuthRoot]

     "DisableRootAutoUpdate"=dword:00000001
   - [HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥Policies¥Microsoft¥SystemCertificates¥AuthRoot]

     "DisableRootAutoUpdate"=dword:00000001
3 ルート証明書をオフにしたことを記録します。これにより OpenLab CDS インストーラが失敗します。インストールが失敗しないようにするにはルート証明書をオンにする必要があります。

NIST ライブラリ検索の設定

OpenLab CDS 内で MS ライブラリ検索を使用するには、ライブラリ検索を実行するワークステーション（または、クライアント/サーバー設定、クライアントまたは AIC）に NIST MS Search プログラムがローカルでインストールされている必要があります。

スタンドアロン、クライアント/サーバー、または Citrix/ターミナルサーバー設定内での NIST ライブラリフレームワークのインストールおよびコンフィグレーションの詳細については、『Setup and Configuration of MS Library Search』（CDS_Configure_MS_Libraries.pdf）を参照してください。このドキュメントでは、他の市販のライブラリやユーザー作成のライブラリと OpenLab CDS MS ライブラリ検索との併用および管理についても説明しています。

5 ライセンス

OpenLab CDS ライセンスについて 53
ライセンスタイプ 53
ライセンスファイル 53
ライセンスの取得 55
SubscribeNet でのライセンスの取得 55
ライセンスを入手するためのその他の方法 57
ライセンスのインストール 59

この章では、OpenLab のライセンスに関する基本的な情報を提供し、SubscribeNet でライセンスファイルを作成する方法について説明します。

OpenLab CDS ライセンスについて

ライセンスタイプ

ライセンスファイルには、製品、機器、およびアドオンライセンス（またはライセンス認証キー）が含まれ、OpenLab にインストールされます。

ライセンスファイル内のライセンスまたはアクティベーションキーは、共有またはカウントのいずれかになります。

- 共有ライセンス — システムコンピューターおよびその他のコンポーネントでは、共有、またはアドオンライセンスを使用できます。これは、コアライセンスを共有しているためです。
- カウントライセンス — このライセンスは、OpenLab CDS のフローティングライセンス方針の一部であり、どのコンポーネントにも恒久的に割り当てられるものではありませんその代わり、AIC および機器などのコンポーネントが起動している間、これらに自動的に割り当てられます。このライセンスは、コンポーネントを切断したときに自動的に返却されます。ライセンス管理プログラムでは、ライセンスの発行や取得を管理します。

  この場合は、コンポーネントが実行中の場合のみライセンスが使用されます。インストールする各コンポーネントにではなく、同時に実行するすべてのコンポーネントに十分な数だけのライセンスを購入すればよいことになります。

システムのスタートアップライセンスでは、インストール後 60 日間 OpenLab CDS を実行できます。60 日の期間以降にデータシステムソフトウェアを実行するためには、ファイナルライセンスファイルをインストールする必要があります。

ライセンスファイル

ライセンスファイルには、お客様のソフトウェアライセンスが含まれます。このファイルは、ライセンスサーバー、すなわちワークステーションコンピューター、またはクライアント/サーバーシステムのサーバーにインストールされます。ライセンスファイルは、このサーバーアドレスに固定されており、別のサーバーに移動することはできません。

ライセンスファイルで、システムが同時に使用可能な機器およびその他のオプションの数が定義されます。

ライセンスを維持管理する最も効率的な方法は、インターネットを使用することです。

薄紫色の封筒を受け取っていない場合、販売店または弊社のサポート窓口にお問い合わせください。

ライセンスの取得

SubscribeNet でのライセンスの取得

以下の手順を使用して、ライセンスを作成およびダウンロードしてください。インターネットにアクセスできない場合は、「ライセンスを入手するためのその他の方法」 57 ページのセクションを参照してください。

SubscribeNetにまだ登録していないユーザーの場合は、［**新規ユーザー**］セクションから行ってください。

SubscribeNet に登録済みの場合は、［**SubscribeNet で登録済みのユーザー**］セクションを参照してください。

必須要件

製品用のファイナルライセンスの作成、ダウンロードおよびインストールを行うには、以下が必要です。

- Software Entitlement Certificate が入った薄紫色の封筒で提供される認証コードラベル。

  製品用に薄紫色の封筒を受け取っていない場合、販売店または弊社のサポート窓口にお問い合わせください。
- Software Entitlement Certificate に記載されている SubscribeNet の URL。
- コントロールパネルがインストールされているコンピューターのホスト名。
- MAC アドレス。

  OpenLab CDS がインストール済みのコンピューターからMAC アドレスを取得するには、コントロールパネルを開き、［**管理**］ > ［**ライセンス**］セクションを参照してください。［**MAC アドレスのコピー**］または［**MAC アドレスの保存**］から、ライセンス作成のための MAC アドレスを入手します。

  作業中に、ライセンスサーバーの MAC アドレスを入力する必要があります。ワークステーションの場合は、ローカルコンピューターのMACアドレスです。クライアント/サーバーシステムの場合は、サーバーのMACアドレスになります。

注記

ライセンスをインストールした後でコンピューター名またはドメインリファレンスが変更された場合、ライセンスを削除してください。新しいライセンスを SubscribeNet で作成し、ダウンロード、およびインストールする必要があります。

注記

ライセンス作成時に使用した MAC アドレスを持つネットワークアダプタがマシンから外されると、お使いのライセンスは有効ではなくなります。新しいライセンスは、ライセンスサーバー上で現在利用可能な MAC アドレスを使用して作成する必要があります。

新規ユーザー

1 **https://agilent.subscribenet.com/control/agil/AgilRegisterToAccount** にアクセスして、SubscribeNet で製品を登録してください。

2 登録ページでは、［Authorization Code］と［Profile Information］ を入力します（必須入力のフィールドにはアスタリスク（*）の印が付いています）。

ここで入力する電子メールアドレスが、ログイン ID になります。

3 **［Submit］**をクリックします。アカウント名が作成されると、それが表示されます。

SubscribeNet からお客様に、ログイン ID とパスワードが記載された、ようこそ電子メールが送信されます。

4 ログイン ID とパスワードで SubscribeNet にログインします。

ログインすると、オンラインのユーザーマニュアルリンクを使用して、質問などに対するヘルプにアクセスすることができます。

5 左側のナビゲーションバーから、 **［Generate or View licenses］**を選択します。

6 新規にライセンスを作成するメッセージが表示されたらそれに従います。コンピューターの HOST NAME (ホスト名) を入力するよう要求されます。

サーバーホスト名を入力します。入力するホスト名には、DNS サフィックス（**domain.com**）リファレンスを含めないでください。

7 ライセンス作成で詳細が表示され、 **［Download License File］**をクリックします。お使いのコンピューターおよびバックアップロケーション（ポータブル記憶装置など）にライセンスファイルを保存します。

ライセンスファイルの再作成や、新規承認コードの追加、またはシステムへのライセンス追加作成のために、Agilent SubscribeNet サイトを再び訪れる際に、ログイン ID とパスワードを使用します。

SubscribeNet で登録済みのユーザー

1 SubscribeNet アカウントがすでにある場合は、**https://agilent.subscribenet.com/** を使用します。

SubscribeNet パスワードが不明な場合は **https://agilent.subscribenet.com/control/agil/password** で再発行手続きを行ってください。

2 複数のアカウントがある場合は、Authorization Code（認証コード）に関連している SubscriberNet アカウントを選択します。

3 SubscribeNetのナビゲーションウィンドウから、 **[Register Authorization Code]** を選択します。

このようにして、新しい Authorization Code を入力し、新しいライセンスを使用できるようにします。

4 この前に記載されている手順 (「**新規ユーザー**」) のステップ 5 から 7 に従い、新しいライセンスの**作成または表示**を行います。

ライセンスを入手するためのその他の方法

ライセンスを作成できない場合、お近くの Agilent サポートオフィスにお問い合わせください。担当者が OpenLab ライセンス申請書を送信する方法をお伝えします。

オフラインライセンス

お客様のラボでインターネット接続が利用できない場合：

お客様自身またはローカルオンサイトサービスエンジニアが必要な情報を収集し、Agilent がお客様のためにライセンスアカウントを作成できるようになります。電話でのサポートについては、販売･サービスの電話番号までお問い合わせください。連絡先情報については、「付録」を参照してください。

Agilent ライセンスサポートに必要な顧客情報：

お客様の代理でライセンスアカウントを作成する場合は、次の情報を Agilent に提出する必要があります。

1 アカウント情報：

アカウント名は、カンマで区切った会社名と実験室名になります。ここで提供される社員情報は、必要に応じて、システムへの今後のアクセスのために、お客様のアカウントの最初の管理者を指定するために使用されます。迅速なサービスをご提供できるよう、Agilent 販売･サービスセンターにご連絡いただく前に、次の情報を用意してください。

- 会社名
- 実験室/部門名
- 名
- 姓
- 電子メールアドレス
- 役職名
- 電話番号
- 国名、都道府県名を含めた住所

2 Authorization Code:

Authorization Code は、薄紫色の封筒に入っているラベルに記載された英数字のコードです。複数のコードを受け取られた場合は、ご注文いただいたライセンスをすべてお客様のアカウントに付与できるよう、すべてのコードをご提示ください。

3 ライセンスの取得：

上記の情報をご提供いただいた後、Agilent はお客様の代理で SubscriberNet 経由でライセンスを生成します。ライセンスファイルは、発送先アドレスに送付されるか（CD で）、または FSE が直接お届けします（通常はUSBメディアを使用）。ライセンスを受け取ったら、「ライセンスのインストール」のセクションに従ってシステムにライセンスをインストールしてください。

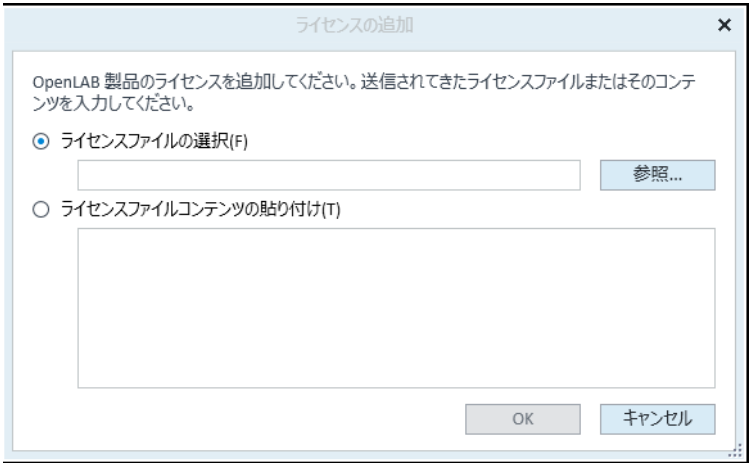
ライセンスのインストール

ライセンスはコントロールパネルを使用してシステムに追加する必要があります。

1 ライセンスをインストールしたいシステムに接続されているマシンから、コントロールパネルを起動します。

2 **［管理］** > **［ライセンス］** の順に選択します。

3 リボン内の **［ライセンスの追加］** ＋ をクリックします。



4 次のようにライセンスのインストールを選択します。

- ［ライセンスファイルの選択］オプションを使用して、SubscribeNet のライセンス作成プロセスで保存したライセンスファイル (.lic) を参照して開きます。
- ［ライセンスファイルコンテンツの貼り付け］オプションを選択し、受信したテキストファイルのライセンステキストを、所定のフィールドにコピーします。

5 **［OK］** をクリックします。

コントロールパネルの **［管理］** インターフェイスでは、インストールしたライセンスのステータスが表示されます。

注記 ライセンスを有効にするために、再起動してください。

6 OpenLab CDS の設定

認証の設定 61
セキュリティポリシーの設定 62
ユーザーおよびロールの設定 63
ユーザーの作成またはインポート 63
グループ 64
ロールと権限 65
ロールへのユーザーまたはグループの追加 66
個別機器またはプロジェクトに関する特定のロール 67
初期プロジェクトの設定 68
初期機器のコンフィグレーション 68
コントロールパネルのその他の設定 69

この章では、ソフトウェアのインストール後の初期設定手順について説明します。すべてのコンフィグレーションタスクはコントロールパネルで実行します。詳細については、「OpenLab Help & Learning」の「コントロールパネル」セクションを参照してください。

認証の設定

OpenLab CDS では、以下の認証プロバイダーをサポートしています。

- **内部**

  内部モードでは、ユーザーの資格情報が OpenLab CDS システムに保存されます。その他のユーザーをセットアップする前に、OpenLab CDS の管理者アカウントを作成するよう促されます。システムに新規ユーザーを作成できるのは内部モードのみです。その他のモードでは、別のシステムに存在するユーザーへのマッピングのみを行えます。

- **Windows ドメイン**

  既存の Windows ユーザーを OpenLab CDS システムにインポートします。この認証は、Windows Active Directory ドメイン、または Enterprise 内の NT 4.0 ドメインで行われます。OpenLab CDS は、割り当てたユーザーの ID およびパスワードのみを使用します。OpenLab CDS のロールと権限はコントロールパネルで設定します。

クライアントまたは AIC のインストール前に、OpenLab Server には認証設定が行われています。内部認証で、認証に問題がない場合は、何もする必要はありません。

1 コントロールパネルを起動します。内部管理者の資格情報でログインします。

2 **［管理］**に移動します。

3 ナビゲーションウィンドウの**［システムコンフィグレーション］**を選択します。

4 リボン内の **［システム設定の編集］** をクリックします。

5 ドロップダウンリストから認証プロバイダー **［Windows ドメイン］** を選択し、**［次へ］**をクリックします。

注記

ストレージタイプは変更しないでください。

6 ［ドメインユーザーを使用して...］チェックボックスをオンにし、ユーザーとグループの情報を取得する権限を持つユーザー資格情報を入力します。**［アカウントの選択］**をクリックして**［ユーザーの検索］**ダイアログを開き、管理者アカウントを選択します。

7 設定を確認します。完了すると、コントロールパネルが再起動します。

セキュリティポリシーの設定

特定の基準（21 CFR Part 11 など）に準拠する必要がある場合、必要に応じてセキュリティポリシーを調整してください。

認証プロバイダーが［**内部**］である場合、すべてのパラメータをコントロールパネルで設定できます。

外部の認証プロバイダー（Windows ドメイン）を使用すると、アプリケーションをロックするまでの時間の設定やシングルサインオンの有効化を設定できます。その他のパラメータはすべて外部システムによって定義されます。

1 コントロールパネルを起動し、［**管理**］へ移動します。

2 ナビゲーションウィンドウの［**セキュリティポリシー**］を選択します。

3 リボン内の［**セキュリティポリシーの編集**］をクリックします。

4 必要に応じてパラメータを設定し、変更を確認します。

コントロールパネルを再起動して変更を適用します。

注記

21 CFR Part 11 の要件を満たすには、［**パスワード有効期間**］を 180 日以下に設定してください。その他のデフォルト値は21 CFR Part 11 に準拠していますので、変更しないでください。

ユーザーおよびロールの設定

ユーザーが表示や実行できる内容を定義するために、OpenLab CDSでは定義済みのロールを提供しており、ユーザーに特定のロールを定義することができます。

各ロールには、多くの特定の権限が定義されています。そのためカスタマイズロールを設定するときは、上位ロールから権限を削除するよりも、下位ロール（権限が少ない）に特定の必要な権限を追加することをお勧めします。

１人のユーザーが複数グループのメンバーである場合もあります。各グループに対して１つ以上の特定のロールを割り当てる必要があります。１人のユーザーに対してロールを割り当てることもできますが、簡素化のためロールの割り当てはグループレベルで行うことを推奨します。グループのすべてのメンバーには、そのグループのすべてのロールが自動的に割り当てられます。

1 コントロールパネルを起動し、**［管理］**へ移動します。

2 ナビゲーションウィンドウの **［ユーザー］**、**［グループ］**、または **［ロール］**を選択します。

3 新規項目を作成するか、既存の項目を編集します。

ユーザーの作成またはインポート

内部認証を使用する場合、コントロールパネルで必要なユーザーを作成します。外部認証システムとして Windows ドメインを使用する場合は、Windows ドメインユーザーをインポートします。

ユーザーの追加（内部認証のみ）

1 ナビゲーションウィンドウから **［管理］** > **［ユーザー］**をクリックします。

2 リボン内の **［ユーザーの作成］**をクリックします。

3 **［ユーザーの作成］**ダイアログで、関連するパラメータを入力します。

- 新規ユーザーの名前とパスワードを入力します。
- デフォルトでは、新規ユーザーは次回ログイン時にパスワードを変更する必要があります。パスワードを変更する必要がない場合は、**［ユーザーは次回ログイン時にパスワードの変更が必要］**チェックボックスをオフにします。

- ［**ロールメンバーシップ**］タブで、ユーザーを適切なロールに割り当てます。デフォルトロールを使用するか、コントロールパネルの［**管理**］ > ［**ロール**］で独自のロールを作成できます。

4 ［OK］をクリックします。

ユーザーのインポート（Windows ドメイン認証のみ）

システムにユーザーを追加するには、ユーザーとグループ情報をドメインから取得する権限を持っている必要があります。

1 ナビゲーションウィンドウから［**管理**］ > ［**ユーザー**］をクリックします。

2 リボン内の ［**ユーザーのインポート**］をクリックします。

3 ［**ユーザーの検索**］ ダイアログボックスに、Windows ドメインユーザー名の検索文字列を入力します。

4 ［**検索結果**］ リストから、インポートするユーザーを選択し、 ［**追加**］をクリックします。選択したユーザーが ［**ユーザーの選択**］ リストに追加されます。

5 ステップ 2 から 4 を繰り返して、インポートするすべてのユーザー名を ［**ユーザーの選択**］ リストに追加し、 ［**OK**］をクリックします。

グループ

外部認証プロバイダーを利用する場合、外部システムの既存グループをインポートするか、新しく内部グループを作成することができます。マッピングおよび作成できるグループの数に制限はありません。

外部システムまたはコントロールパネルのグループにユーザーを割り当てます。OpenLab CDS にのみ関係のある追加のユーザー割り当てが必要な場合には、コントロールパネルに作成します。ユーザー割り当てが必要でない場合は、グループをインポートして、そのグループに必要なロールを割り当てるだけで十分です。

グループの削除または割り当てを解除する場合、そのグループのメンバーであるユーザーに対する変更は行われません。

ロールと権限

ロールは権限をユーザーまたはユーザーグループに割り当てるために使用され、全体的にまたは特定の機器やプロジェクト、プロジェクトグループまたはロケーションごとに割り当てることが可能です。システムには定義済みロールのリストが、システムインスタレーションの一部としてインストールされています（たとえば、**［機器管理者］**、**［機器ユーザー］**、または**［すべて］**）。各ロールには、固有の権限が割り当てられています。

権限は、主要な３つのロールタイプ（プロジェクトロール、機器ロール、管理ロール）に従ってグループ化されています。権限をロールに割り当てる場合、まず必要なロールタイプを選択してからそのロールタイプに関連する権限を選択します。各ロールは、特定のロールタイプ１つに対応する権限のみを有します。例外として、定義済みロールの**［すべて］**だけは、すべてのロールタイプのすべての権限を有します。ユーザーまたはグループがシステム機能を実行するためには、複数のロールが必要な場合があります。例えば、**化学者**というロールを持つユーザーには、機器を実行する権限を持つ**機器ユーザー**といった別のロールが必要な場合があります。

コントロールパネル内にさまざまなロケーションから成るツリーを作成し、関連するロケーションに機器を追加することが可能です。それぞれの機器や機器グループに、異なった機器ロールを割り当てることができます（「個別機器またはプロジェクトに関する特定のロール」 67 ページも参照）。たとえば、ユーザーが１つの機器で**［機器管理者］**ロールを持ち、別の機器で**［機器ユーザー］**ロールを持っている場合があります。

コントロールパネルでさまざまなプロジェクトまたはプロジェクトグループから成るツリーを作成し、さまざまなプロジェクトにさまざまなプロジェクトロールを割り当てることもできます（「個別機器またはプロジェクトに関する特定のロール」67ページも参照してください）。たとえば、ユーザーがプロジェクトで**［プロジェクト管理者］**のロールを持つと、コントロールパネルで設定を管理することができます。もう１つのプロジェクトでは、このユーザーはプロジェクトの内容を編集することはできても、プロジェクトの設定を変更することはできないロールになっている場合があります。

権限の詳細については、「付録」を参照してください。

表 3 ロールタイプの説明

ロールタイプ	説明
管理者権限	これらの権限はユーザーまたはグループに対して全体的に割り当てられ、機器、ロケーションレベルで変更することはできません。代表的な管理権限に、**［バックアップとリストア］**、**［セキュリティの管理］**、**［プリンタの管理］**などがあります。
機器権限	これらの権限は、全体的に、または機器、ロケーションレベルで割り当てることが可能です。機器に関する権限には、**［機器またはロケーションの表示］**や**［機器の実行］**などがあります。 コントロールパネルのロケーションと機器ツリーを閲覧するには、全体のレベルで**［機器またはロケーションの表示］**の権限が必要となります。
プロジェクト権限	さまざまなレベルのデータへのアクセスまたはその変更を行うための権限。これらの権限はグローバルに、またはプロジェクトあるいはプロジェクトグループレベルで割り当てることが可能です。

ロールへのユーザーまたはグループの追加

1 ナビゲーションウィンドウから、**［管理］** > **［ロール］**をクリックします。

2 **［ロール］**ウィンドウで、ユーザーまたはグループに割り当てるロールを選択します。

3 リボン内の **［ロールの編集］**をクリックします。

4 **［ロールの編集］**ダイアログボックスで、**［メンバー］**タブをクリックします。

5 **［ユーザーまたはグループの追加］**をクリックします。

6 **［ユーザーおよびグループの検索］**ダイアログボックスで、ユーザーまたはグループ名を入力するか、**［検索］**をクリックして検索条件を満たすすべてのユーザーとグループのリストを表示します。

7 **［検索結果］**でユーザーまたはグループを選択し、**［追加］**をクリックします。

8 **［OK］**をクリックします。

個別機器またはプロジェクトに関する特定のロール

デフォルトでは、ユーザーまたはグループのロールは、すべてのロケーション、機器、プロジェクトグループまたはプロジェクトで全般的に設定されます。ロールの設定はそれぞれ、ルートノードの［**機器**］または［**プロジェクト**］から継承されます。特定のプロジェクトでユーザーまたはグループに異なるロールを割り当てるには：

1 該当するプロジェクトを選択します。

2 リボン内の［**権限の編集**］をクリックします。

3 ［**権限の編集**］ダイアログで、［**親からの権限の継承**］チェックボックスをオフにします。

その後、特定のノードについてのみ有効となる異なるロールを割り当てることが可能になります。

個々のロケーションまたは機器で［**機器**］のロールを割り当てることができます。

プロジェクトを使用すると、［**プロジェクト**］ロールを個々のプロジェクトグループまたはプロジェクトに割り当てることができます。

［**管理**］ロールは、常に全般で設定されます。

初期プロジェクトの設定

1 コントロールパネルを起動し、**［プロジェクト］**へ移動します。
2 リボン内の**［作成］**をクリックして、新しいプロジェクトを作成します。

［CDS 設定］タブで、

- メソッド、シーケンス、結果、シーケンステンプレートおよびレポートテンプレートのロケーションを入力します。
- そのプロジェクトに対して必要な監査証跡設定を行います。

詳細については、「OpenLab Help & Learning」の「コントロールパネル」セクションを参照してください。

初期機器のコンフィグレーション

1 コントロールパネルを起動し、**［機器］**へ移動します。
2 リボンで**［作成］**をクリックし、新しい機器を作成する
3 機器を選択し、リボンで**［機器のコンフィグレーション］**をクリック
4 自動コンフィグレーション（利用可能な場合）を使用して機器をコンフィグレーションすることを推奨します。**［自動コンフィグレーション］**をクリックして、機器の IP アドレスまたはホスト名を入力します。

詳細については、「OpenLab Help & Learning」の「コントロールパネル」セクションを参照してください。

コントロールパネルのその他の設定

コントロールパネルのその他の設定として次のことが行えます。

- 機器ステータスのレポート頻度の変更
- プロジェクトの監査証跡設定の変更
- プロジェクトの署名レベルの編集

詳細については、「OpenLab Help & Learning」の「コントロールパネル」セクションを参照してください。

7 OpenLab CDS ソフトウェアについて

ソフトウェアアーキテクチャ 71
クライアント/サーバーシステムで使用するコンポーネント 73
OpenLab プラットフォームサービスおよびコンポーネント 74
21 CFR Part 11 のコンプライアンス 75
データセキュリティ 76
データの完全性 76
監査証跡 76
カスタマイズ 77
カスタム計算によるカスタマイズ 77
レポートテンプレートによるカスタマイズ 77
外部プログラムを起動するようアプリケーションをカスタマイズ 78
生データと結果のエクスポート 78

この章では、基本的なソフトウェア機能について概説します。

ソフトウェアアーキテクチャ

OpenLab CDS は、分析ワークフロー用のデータシステムソリューションです。業界をリードする GC および GC/MS（シングル四重極）に加え、クラス最高の LC および LC/MS（シングル四重極）を含めたさまざまな機器を制御するとができます。集中型システム管理によってクロマトグラフィとシングル四重極質量分析を拡張可能なひとつのソリューションに統合します。これにより、ラボのワークフローを合理化して、生産性を最大限に高めることができます。ユーザーインターフェイスはニーズに合わせ簡略化されています。最先端の使用感を備えたユーザーインターフェイスとラーニングツールによって、速度と生産性を速やかに向上させることができます。

Agilent OpenLab CDS ソフトウェアは読み取り専用の USB メディアで提供されます。このUSB メディアには、インストールに必要なファイルとドキュメントがすべて含まれます。次のものが含まれます。

- 測定
- データ解析 および レポート
- Shared Services
- Content Management
- Custom Calculation Editor
- Help & Learning プラットフォーム
- ユーザーマニュアル
- Agilent LC、GC、LC/MS、GC/MS、A/D 用の機器ドライバーソフトウェア
- Agilent 以外の機器ドライバー用の機器ドライバーソフトウェア
- Virtual Instruments の機器ドライバーソフトウェア (Data Player)
- Agilent Parts Finder
- サードパーティ製ツール

クライアント/サーバーシステムでは、Content Management と Shared Services は専用サーバーにインストールされます。システムは分析機器コントローラ（AIC）ごとに最大 6 台の機器接続をサポートします。

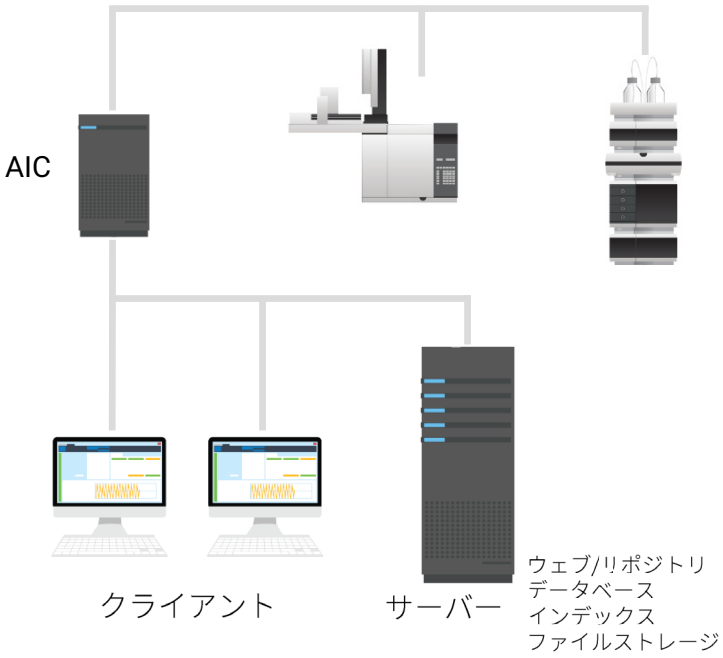


図 2　クライアント/サーバーシステム、1 台のサーバーシステム

クライアント/サーバーシステムで使用するコンポーネント

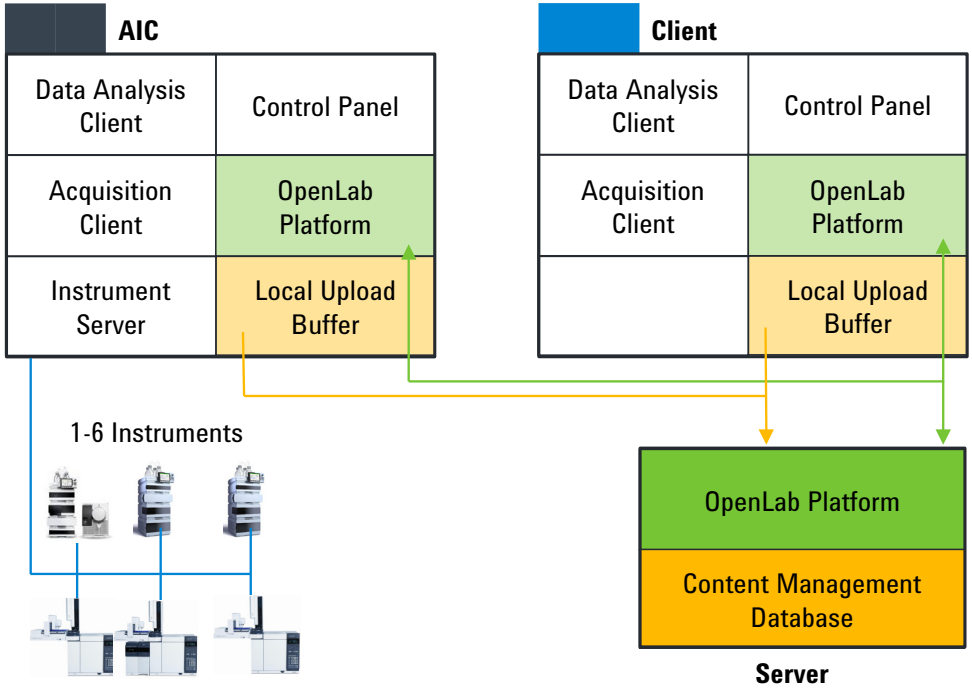


図 3　クライアント/サーバーシステムのコンポーネント

測定クライアント	コンフィグレーションされた機器で生データを取り込みます。
データ解析クライアント	取り込んだデータを解析します。
機器サーバー	コンフィグレーションされたすべての機器への接続を制御します。
コントロールパネル	Shared Services コントロール機能にアクセスするためのユーザーインターフェイスです。
OpenLab プラットフォーム	バックグラウンドで実行するサービスおよびツールを提供します。
Content Management	分析データ用のセキュアストレージです。

OpenLab プラットフォームサービスおよびコンポーネント

以下のサービスおよびコンポーネントが OpenLab プラットフォームの一部としてインストールされます。インストールされるサービスは、インストールのタイプ（クライアント、AIC、またはサーバー）によって異なります。

- Certificate Service と Certificate Service Tool

  商用の証明書が利用できない場合に、ネットワークトラフィックを保護するためのソリューションとして機能します。

- Data Collection Service と Data Collection Agent

  分散システムでシステムおよびトポロジー関連の情報を収集するためのサービス。

- Data Repository

  診断およびトポロジー関連の情報を保存するためのストレージインフラストラクチャ。

- Shared Services

  システムコンフィグレーション、セキュリティ、アプリケーション設定、ライセンス、ログ、および通知機能を提供するサービスおよびツールのセット。

- Data Analysis Service

  パフォーマンス向上のためにデータ解析インスタンスを管理します。

- Distributed Transaction Coordinator Service

  マイクロサービス間のトランザクション調整を処理します。すべての接続アクションが 1 つのユニットとして成功または失敗するようにします。

- ECM XT Backup サービス

  Content Management または ECM XT システムの場合：スケジュールされたバックアップをモニターし、通知を送信、および通知プロセスをカスタマイズするサービス。

- Electronic Signature Service

  ドキュメントの署名サービスを提供します。電子署名サービスは、電子署名の一元保存に基づいています。

- Proxy Configuration Service

  OpenLab コンポーネントに Apache リバースプロキシを通してソフトウェアアプリケーションへのアクセスを提供します。

- Test Services

  以前は QualA でした。データリポジトリと通信します。
- CopyTo Server、および CopyTo Client

  出力先フォルダーを管理します。
- Automation Server
- Diagnostic Tools Service
- Instrument Service
- License Server および Licensing Support Services
- Audit Trail Service

  監査証跡コンテンツの取得および表示を含むサービス。OpenLab CDS では現在使用されていません。

21 CFR Part 11 のコンプライアンス

電子記録とコンピュータ制御システムに関する FDA の規定およびガイドラインを満たすには、安全なデータ処理の基本について理解することが重要です。

- **データセキュリティ:**システムへのアクセスを制限し、無許可アクセスを防止することで、データを物理的に保護します。
- **データ整合性:**生データおよびメタデータを保護して無許可修正を防止し、生データと結果をリンクさせて元の結果をいつでも再生します（規制下の場合、新しい結果のコピーをそれぞれ書面化する場合など）。
- **監査証跡:**結果に対して誰がいつ何を行ったかを文書化し、元の生データに新しい再解析バージョンを追加したユーザーを追跡します。

データセキュリティ

セキュリティ関連の Shared Services 機能には以下が含まれます（詳しくは「コントロールパネル」 80 ページを参照してください）。

- システムアクティビティログ
- 認証プロバイダーの選択
- ユーザー、グループ、ロール、および権限の管理
- セキュリティポリシー

データの完全性

OpenLab CDS は、21 CFR Part 11 に準拠する方法でデータを保存します。これにより、アクセスコントロールおよび監査証跡機能のある安全なデータ保存を提供します。データファイルは、データの完全性とトレーサビリティを確保するためにバージョン化されています。また、 OpenLab CDSでは電子署名を利用してデータにサインオフすることが可能です。

監査証跡

監査証跡には次のタイプがあります。

- **シーケンスの監査証跡**は、データの測定時にシーケンスに対して行われた変更の記録です。
- **メソッドの監査証跡**は、サンプルプレップメソッド、測定メソッド、または解析メソッドに加えられた変更の詳細リストを提供します。
- **注入データの監査証跡**は、分析中およびデータ解析のすべての変更を一覧表示したシングル注入の記録です。
- **結果セットの監査証跡**は、シーケンス/結果セットに含まれるすべての注入データの監査証跡のスーパーセット（上位集合）です。

監査証跡の具体的な動作は、コントロールパネルでのプロジェクト設定によって変わります。

カスタマイズ

OpenLab CDS は、さまざまなワークフローやアプリケーションをサポートするようにカスタマイズできます。カスタマイズ機能はさまざまな方法で利用できます。

ツールの使用方法の詳細については、「OpenLab Help & Learning」を参照してください。

カスタム計算によるカスタマイズ

データ解析は、追加の値を計算することで機能を強化することができます。Custom Calculation Editor で計算され、解析メソッドから参照されるか、解析メソッドに埋め込まれます。

これらの計算は非常に複雑になることがあります。計算結果はデータ解析に直接表示されるため、レポートを作成する必要はありません。

カスタム計算は、結果セット単位で処理されます。これらは結果セットのすべての注入データを解析する場合のみ計算されます。

レポートテンプレートによるカスタマイズ

レポートテンプレートで、メソッド固有のカスタム計算結果を呼び出したり、テンプレート固有の追加の計算式を定義したりできます。テンプレート固有の値は、レポートプレビューまたは最終レポートにのみ表示されます。

レポートは、注入データレベル、結果セットレベル、複数の結果セットに対して作成されます。レポートを使用して、上述のすべてのレベルの結果評価を自動で行うことができます。

アプリケーションでは石油化学製品や医薬品用の一般的なレポートテンプレートを提供しています。このテンプレートはデータ解析にインポートできます（「OpenLab Help & Learning」の「デフォルトテンプレートのインポート」を参照）。

外部プログラムを起動するようアプリケーションをカスタマイズ

カスタマイズ機能によって、OpenLab Data Analysis の［**データ選択**］や［**データ解析**］ビューにリボングループやアイコンを追加できます。

外部プログラムをアイコンから起動し、プロジェクトデータパスや現在の注入データのパスをパラメータとしてプログラムに引き渡すことが可能です。

カスタマイズは、C:¥ProgramData¥AgilentTechnologies ¥OpenLab DataAnalysis¥ のファイル CustomToolsConfiguration.xml を基にユーザーが作成します。CustomToolsConfiguration.xml ファイルの例が、メディアの **Setup** > **Tools** > **Support** > **UCL** > **Customization** フォルダーにあります。

詳細については、「OpenLab Help & Learning」を参照してください。

生データと結果のエクスポート

データ解析により、解析メソッドの一部としてポスト解析用プラグインを実行することができます。これらのポスト解析用プラグインでは、シングルランおよびシーケンスランの解析の一部として生データや結果をエクスポートすることが可能です。スクリプトは、以下の形式にエクスポートできます。

- ChemStation エクスポート（.D/.ch 形式）
- AIA エクスポート（OpenLab CDS 2.x の生データとピーク結果を AIA Chromatography Data Standard Specification V1.0 で規定されている netCDF（Rev. 3.4）形式）
- ASR エクスポート（OpenLab CDS 2.x の生データを ASR（Analytical Studio Reviewer）ファイル形式）
- OpenLab CDS 2.x データエクスポート（ACE 用の .dx ファイル）
- CSV エクスポート（OpenLab CDS 2.x の生データをカンマ区切り .csv ファイル形式）

Allotrope Data Format（ADF）プラグインなどのその他のプラグインは SubscribeNet 経由で入手できます。

8 システム設定およびメンテナンス

コントロールパネル　80
機器管理/ラボステータス全体の表示　80
ライセンス管理　81
システムアクティビティログ　82
診断　83
管理レポート　83
認証プロバイダー　84
セキュリティポリシー　84
ユーザー管理　84
その他のメンテナンス手順　85

この章には、コントロールパネルと Shared Services のメンテナンスに関する情報を記載しています。さらに、メンテナンス手順に関する情報も記載しています。

コントロールパネル

コントロールパネルを使用すると、セキュリティポリシー、コンフィグレーションの一元管理、およびラボステータスの一覧表示などの Shared Services コントロール機能にアクセスできます。

下記の機能にアクセスするには特定の権限が必要な場合があります。

機器管理/ラボステータス全体の表示

コントロールパネルの **［機器］** ビューで、ネットワークまたはワークステーション上のすべての機器についての概要を表示します。1 ページに要約されたすべての機器に関する下記の情報を確認することができます。

- カラーコードの機器ステータス
- ソフトウェアステータス
- 機器名
- 機器のロケーション
- 機器タイプ
- コンフィグレーションの最終変更

コンフィグレーションによっては、この情報に 1 台のワークステーション PC からアクセスできる場合と、ネットワーク内の複数クライアントからアクセスできる場合とがあります。

コントロールパネル内に異なるロケーションツリーを作成し、これらのロケーションへと機器を追加することが可能です。ロケーションを使用して、例えば部署や実験室や実験室のベンチごとに、機器を体系化することができます。各機器の名称、詳細説明、機器タイプといった基本情報が入力可能です。

OpenLab CDS での権限に応じて、数種類の操作を機器上で行うことが可能です。

- 機器情報（機器ステータス、機器詳細、アクティビティログ）の表示
- ロケーションと機器ツリーの表示
- 機器情報の編集
- 機器の設定

  機器のコンフィグレーションは Shared Services データベースに保存されます。コンフィグレーションツールにはコントロールパネルからアクセスします。
- 機器の起動

  ワークステーション上では、その PC 上でコンフィグレーションされた機器のみを起動できます。

  クライアント/サーバーシステムでは、ネットワーク内の任意の OpenLab CDS クライアントから機器をリモートで起動できます。

ユーザーの権限は、ロケーションや機器により異なる場合があります（「個別機器またはプロジェクトに関する特定のロール」 67 ページを参照）。

ライセンス管理

このサービスでは、システムに必要なすべてのライセンスの管理を行います。

ライセンスファイルを追加する前にまずライセンスを購入し、SubscribeNet を利用してライセンスファイルを作成する必要があります。新規ライセンスファイル作成についての詳細は、「SubscribeNet でのライセンスの取得」 55 ページを参照してください。

コントロールパネル内のライセンス管理で以下の機能を利用できます。

- ライセンスファイルをライセンスサーバーに追加できます。
- ライセンスモニターへ移動し、ライセンスサーバーにインストール済みのすべてのライセンスのプロパティを表示することが可能です。
- ライセンスファイルをライセンスサーバーから削除できます。これは、無効なライセンスファイルが追加された場合に便利です。
- ライセンスサーバーを表示または変更することが可能です。
- ライセンスサーバーの MAC アドレスを表示、コピーまたは保存することができます。
- Agilent Electronic Software and License Delivery のWeb ページに移動してライセンスを取得できます。

インストール済みライセンスについては以下のプロパティが表示されます。

- **[Feature]**：使用しているライセンスタイプを表示します。
- **[Version]**：ライセンスにバージョン番号がある場合、バージョン番号を見ることができます。バージョン番号が付いていないライセンスの場合には、バージョンは常に 1.0 として表示されます。
- **[In Use (Available)]**：現在使用中のライセンスの数（括弧内はライセンスの総数）を示します。OpenLab CDS のライセンス手法は、ソフトウェアのインスタンスが実行されているときのみ、ライセンスが使用中になります（「ライセンスタイプ」 53 ページ を参照）。
- **[Expiration]**：ライセンスに期限が設定されている場合、有効期限が表示されます。

[Alerts] ペインで、特定の機能で使用できるライセンス数がゼロになった場合、または使用不可能なライセンスのソフトウェアインスタンスを起動した場合に、通知が表示されます。

ライセンスファイルの追加およびライセンスプロパティの表示についての詳細は、「OpenLab Help & Learning」の「コントロールパネル」セクションを参照してください。

システムアクティビティログ

アクティビティログの表示権限を持つユーザーがシステムアクティビティログを表示でき、すべてのシステムアクティビティに一元的にアクセスできます。ログには、Shared Services や特定の機器に関連するさまざまなイベントの情報が含まれます。リストをフィルタリングして、特定のタイプのイベント、特定の時間範囲内のイベント、特定のユーザーが作成したイベント、または特定の内容を含むイベントだけを表示できます。

以下のイベントタイプが記録されます。

- システム
- 機器管理
- 機器
- プロジェクト管理
- 機器コントローラ
- ユーザー
- グループ
- セキュリティ

- プリンタ
- ライセンス

メッセージはユーザー管理などその他コンポーネントから来る場合と、機器モジュールから来る場合とがあります。機器メッセージには、エラーメッセージ、システムメッセージ、イベントメッセージなどがあります。［システムアクティビティログ］は、警告があったかどうかにかかわらず、これらのイベントを記録します。イベントに関する詳細情報を見るには、作業ログブックビューア内で対象行を展開します。

診断

［診断］ビューでは、診断の目的でいくつかのレポートおよびツールにアクセスできます。

- サーバーへ Ping します。
- ローカルシステム、またはサーバーのいずれかについて、オペレーティングシステム、プロセッサ、ディスクドライブ、プロセス、ネットワークおよび接続に関するレポートを作成します。
- 登録モジュールが作成するログファイル、トレースファイルなどに一元的にアクセスしてダウンロードすることができます。

管理レポート

［管理レポート］ビューでは、システムのコンフィグレーションに関連した種々の XML または PDF レポートを作成してエクスポートすることができます。

機器コントローラレポート

すべての機器コントローラについての詳細情報。ワークステーションでこのレポートが生成される場合、そこに提示された情報はローカルシステムについてのものになります。このレポートをクライアントサーバシステムで生成する場合には、すべての機器コントローラが含まれます。

機器レポート

システム上のすべての機器についてのコンフィグレーションおよびアクセス権限についての詳細情報を提供します。クライアントサーバシステムでは、このレポートにはすべての機器コントローラ上のすべての機器が含まれます。

プロジェクトレポート

システム上のすべてのプロジェクトについてのコンフィグレーションおよびアクセス権限に関する詳細情報を提供します。

ロールと権限レポート

システム上で定義されたすべてのロールについて、各ロールに含まれるすべての権限についての詳細を含めた情報を提供します。

システムレポート

このレポートは、機器コントローラ、機器、プロジェクト、ロール、ユーザーおよびグループについての全情報を含めた、システムについての統合されたビューを提供します。

ロール割り当てのレポート（ユーザー/グループ）

このレポートは、すべてのユーザーとグループの概要に、割り当てられたロールを与えます。

認証プロバイダー

認証プロバイダーについては、「OpenLab CDS の設定」で説明しています。詳細については、「認証の設定」 61 ページを参照してください。

セキュリティポリシー

セキュリティポリシーについては、「OpenLab CDS の設定」に記載されています。詳細については、「セキュリティポリシーの設定」 62 ページを参照してください。

ユーザー管理

ユーザー管理については、「OpenLab CDS の設定」に記載されています。詳細については、「ユーザーおよびロールの設定」 63 ページを参照してください。

その他のメンテナンス手順

Shared Services とセキュアストレージ

Shared Services およびセキュアストレージデータベースは、OpenLab サーバー上で実行されます。

詳細については、『Agilent OpenLab Server および OpenLab ECM XT 管理者ガイド』（ECM_XT_v2.7_AdministrationGuide_ja.pdf）を参照してください。

- FTP サーバープロトコル設定
- データベース統計
- リソースモニタリング
- 障害復旧プラン

バックアップとリストア

すべての OpenLab Server/ECM XT Server を必ず定期的にバックアップしてください。定期的なフルバックアップと、フルバックアップの間に実行する差分バックアップは、OpenLab Server/ECM XT Server 管理者が作成します。これらのバックアップは、ハードウェアまたはソフトウェアの不具合が発生したときに OpenLab Server/ECM XT Server をリストアする唯一の方法です。

致命的なシステム障害が発生した場合、バックアップはデータ損失量を軽減します。バックアップを実施することで、バックアップ時点でコミットされたデータをリストアすることができるよう保証されます。アップロード待ちでまだコミットされていないデータや、バックアップを実施した後にシステムに追加または更新されたデータは、バックアップをリストアしても復旧できません。

バックアップが正しく実施され、リストアに使用できることを確認するには、必ずリストア手順もテストする必要があります。有効なリストアを実行するには、障害復旧プランの作成が必要です。詳細については、『Agilent OpenLab Server および OpenLab ECM XT 管理ガイド』（ECM_XT_v2.7_AdministrationGuide_ja.pdf）を参照してください。

その他の製品またはデータベース

GC カラムデータベースなど、その他の製品のバックアップ手順については、各製品のドキュメントを参照してください。

9 最新の OpenLab CDS バージョンへのアップグレード

ライセンスアップグレード 87
アップグレードライセンスファイルの取得 87
システムへのアップグレード済みライセンスファイルの追加 88
アップグレードプロセス 89
アップグレードのプラン 89
アップグレード中の一時的なコンフィグレーション 89
新しい権限およびロール 91
手順 1: OpenLab Server のアップグレード 91
手順 2: 分析機器コントローラのアップグレード 91
手順 3: OpenLab CDS クライアントのアップグレード 94
手順 4: ドライバーのアップグレード 95
サーバーへのクライアントまたは機器コントローラの登録 96
Sample Scheduler for OpenLab 98
新しい権限およびロール 99

この章では、クライアント/サーバー環境での OpenLab CDS ソフトウェアのアップグレードについて説明します。

ライセンスアップグレード

アップグレードライセンスファイルの取得

OpenLab CDS の次のバージョンへアップグレードする前に、SubscribeNet でライセンスをアップグレードする必要があります。コアソフトウェアを**アップグレードする前に**ライセンスをアップグレードすることを強くお勧めします。新しいライセンスなしでスタンドアロンワークステーションまたは AIC を新しいバージョンのコアソフトウェアにアップグレードした場合、そのワークステーションまたは AIC は、OpenLab コントロールパネルに新しいライセンスが追加されるまでは機能しません。

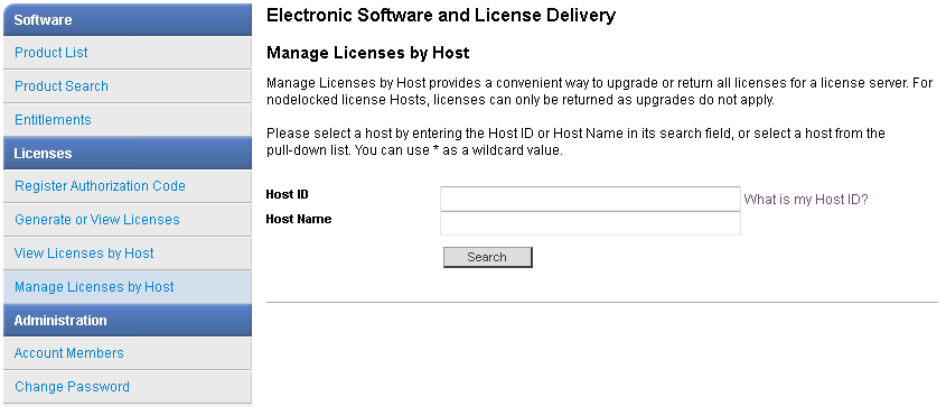
SMA を契約している場合は、次の手順でライセンスをアップグレードできます。

1 以下の処理中に、OpenLab CDS がインストール済みのサーバーのホスト名または MAC アドレスを入力するよう SubscribeNet で要求されます。

ホスト名および MAC アドレスを取得するには、AIC またはクライアントでコントロールパネルを開き、［**管理**］ > ［**ライセンス**］セクションへ移動します。ホスト名を記録し、［**MAC アドレスのコピー**］または［**MAC アドレスの保存**］機能を使用して MAC アドレスを取得します。

2 Agilent Electronic Software and License Delivery（**https://agilent.subscribenet.com/**）にログインします。

3 ［**Manage License by Host**］へ移動します。［**Host ID**］フィールドに、メモしておいた MAC アドレスを入力し、［**Search**］をクリックします。



該当するホスト名が表示されない場合、複数の SubscribeNet アカウントでライセンスを管理している場合があります。これらのアカウントにログインしてライセンスをアップグレードする必要があります。

4 ライセンスをアップグレードする資格がある場合、［**Upgrade All**］ボタンが表示されます。これが表示されないときは、Agilent の営業担当者にご連絡いただき、ソフトウェアメンテナンス契約（「営業およびサポートのお問い合わせ先」 118 ページ を参照）を更新する必要があります。アップグレードライセンスを作成するときは、［Generate］ボタンをクリックしてください。

5 **Upgrade All Licenses for License Host** ページで、データを見直し、［**Upgrade All**］をクリックして確定します。

これによりライセンスファイルが最新バージョンにアップグレードされます。SubscribeNet からお客様に、新しいライセンスファイルの添付された電子メールが送信されます。

6 システムに新しいライセンスファイルを追加します（「システムへのアップグレード済みライセンスファイルの追加」 88 ページを参照してください）。

システムへのアップグレード済みライセンスファイルの追加

追加の機器コントロールやクライアントライセンスなど、新しいオプションを購入した場合や、SubscribeNet でライセンスを再作成した場合には、システムにアップグレードライセンスファイルを再適用する必要があります。

1 ライセンスをインストールしたいシステムに接続されているマシンから、コントロールパネルを起動します。

2 ［**管理**］ > ［**ライセンス**］の順に選択します。

3 ライセンスを選択し、［**ライセンスの削除**］ ✕ をクリックします。

4 リボン内の ［**ライセンスの追加**］ ＋ をクリックします。

5 SubscribeNet のライセンス作成プロセスで保存したライセンスファイルを参照して開きます。

注記 ライセンスを有効にするために、再起動してください。

アップグレードプロセス

アップグレードのプラン

注記

アップグレードする前に、アクティブな測定がすべて停止されていることを確認してください。

コンポーネントは以下の順序でアップグレードする必要があります。

1. OpenLab Server
2. 分析機器コントローラ（AIC）
3. OpenLab CDS クライアント
4. 必要に応じて、機器ドライバーをアップグレード

アップグレード中の一時的なコンフィグレーション

アップグレード中に、異なるバージョンの OpenLab CDS がある場合があります。OpenLab Server 2.7 の環境では、クライアントおよび AIC と OpenLab CDS バージョン 2.4 以降の使用をサポートしています。分析機器コントローラと OpenLab CDS クライアントは、常に同じバージョンの OpenLab CDS を使用する必要があります。

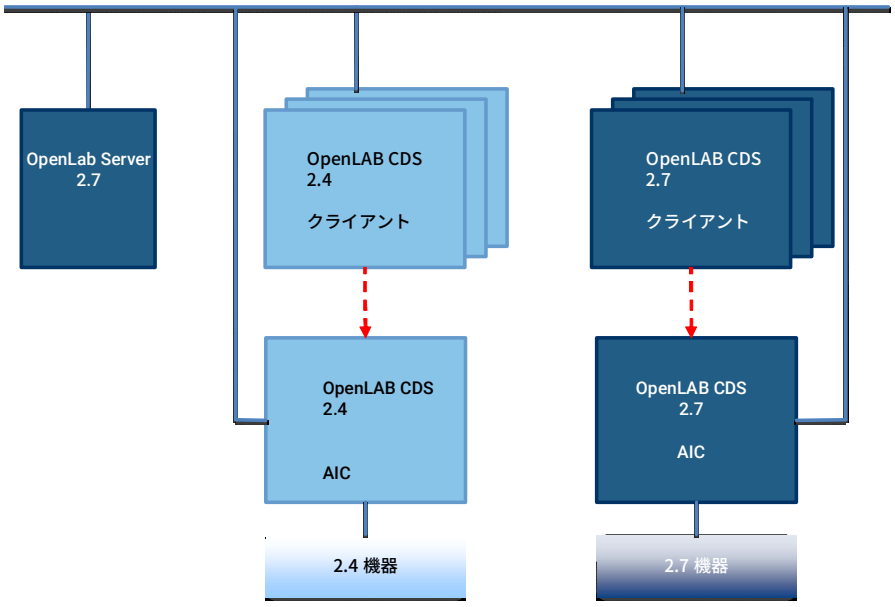


図 4　　アップグレード中の混合コンフィグレーション

2.7 の AIC によってコントロールされる機器にアクセスするには 2.7 のクライアントを使用し、古い AIC によってコントロールされる機器にアクセスするには同じバージョンのクライアントを使用してください。データストレージは OpenLab Server 2.7 によって提供されます。どちらの環境も同じストレージを共有します。コントロールパネルの機器構造を使用すると、機器を区別するのに役立ちます。

注記

必ず同じシステムから機器を起動またはおよび切断してください。バージョン 2.7 から機器を起動して、バージョン 2.4/2.5/2.6 から切断したり、その逆を行ったりしないでください。

注記

データの解析および再解析は、測定または最後の再解析に使用したものと同じかそれ以上のバージョンでのみサポートされます。

新しい権限およびロール

以前のバージョンからアップグレードすると、新しい権限およびロールが作成される場合があります。たとえば、Shared Services バージョン 3.6 / OpenLab CDS 2.7 から、**アクティビティログの表示**権限が追加されています。この権限はアクティビティログや監査証跡を表示するために必要です（ロールと権限の詳細については「付録」を参照）。この権限は、新しいロール**アクティビティログのアクセス**にデフォルトで割り当てられています。アップグレード時に、この新しいロールは既存のすべてのユーザーおよびグループに自動的に割り当てられます。

アクティビティログの表示権限は、デフォルトのロール**システム管理者**にも自動的に追加されています。

手順 1: OpenLab Server のアップグレード

OpenLab Server のアップグレードの詳細については、『OpenLab Server および OpenLab ECM XT インストールガイド』（ECM_XT_v2.7_InstallationGuide_ja.pdf）を参照してください。

手順 2: 分析機器コントローラのアップグレード

必須要件

OpenLab Server をバージョン 2.7 にアップグレード済みであること。

機器コントローラをアップグレードする前に、既存システムのドメインおよび DNS 設定が『ECM XT ハードウェアおよびソフトウェア要件ガイド』（ECM_XT_v2.7_HardwareSoftwareRequirements_ja.pdf）で指定されるドメインのガイドラインに従っていることを確認してください。特に、通信設定は IP アドレスではなくホスト名に基づいていることを確認してください。

前のドメインおよび DNS 設定がホスト名の代わりに IP アドレスで定義されている場合、OpenLab CDS クライアントおよび測定コントローラを再度コンフィグレーションする必要があります。これは、OpenLab 2.7 以降のセキュ

リティで保護された通信設定で、クライアントとサーバーが通信するために必要です。注記：OpenLab クライアントまたは測定コントローラの再コンフィグレーションが必要な場合、Agilent では完全修飾ドメイン名（FQDN）を使用することをお勧めします。

IP アドレスに代わりに完全修飾ドメイン名でクライアントまたは AIC を再コンフィグレーションする場合、「サーバーへのクライアントまたは機器コントローラの登録」 96 ページを参照してください。

注意

アップグレード後に ADFExport 1.3 以前をアンインストールすると、データ解析アプリケーションが起動できなくなる可能性があります。

ADFExport のリビジョン 1.3 以前には、OpenLab CDS 2.7 との互換性がありません。アップグレード後にそれらの ADFExport バージョンのいずれかをアンインストールすると（それ自体のアップグレード中を含む）、重要なファイルが OpenLab CDS から削除される可能性があります。そのためデータ解析アプリケーションが起動できなくなる可能性があります。測定中の自動解析およびデータ解析が失敗する可能性があります。OpenLab CDS の再インストールが必要となる可能性があります。

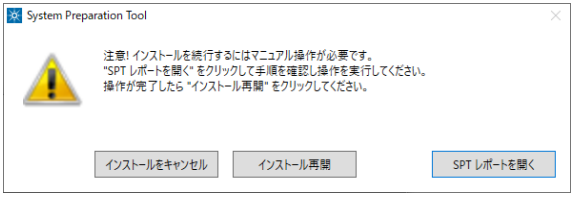
✓ **ADFExport for OpenLab のリビジョン 1.3 以前が OpenLab CDS バージョンと一緒にインストールされている場合、OpenLab CDS をリビジョン 2.7 へアップグレードする前にアンインストールしてください。**

1 管理者権限を持つユーザーとしてインストールメディアから setup.exe ファイルを実行します。
2 **［OpenLab CDS］**を選択します。
3 OpenLab CDS インストーラで、**［インストール］**画面を選択します。
4 **［機器コントローラ］**をクリックします。
5 **［ストレージの設定］**画面で**［次へ］**をクリックします。
6 **［サーバー情報］**画面で**［接続］**をクリックしてサーバーが利用できることを確認します。サーバーが利用できる場合、OpenLab CDS の資格情報を入力し、**［次へ］**をクリックします（クライアントインストールの場合は資格情報を入力する必要がありません）。
7 アップグレードウィザードは**［システム準備］**画面にシステムの推奨設定リストを表示します。システムに適用する必要のない項目のチェックボックスをオフにすることができます。必須設定はアップグレード時に自動的に適用されます。必須設定と推奨設定の概要は、『OpenLab CDS ワークステーション、クライアント、および機器コントローラ 要件とサポートする機器』ガイド（CDS_v2.7_Requirements_ja.pdf）の「System Preparation Tool」の章を参照してください。

［次へ］をクリックして［**レビュー**］ページへ進みます。
設定はインストールの一環として適用されます。

8 ［**レビュー**］画面で、［**アップグレード**］をクリックしてアップグレードを開始します。

9 インストール前に手動で操作する必要がある場合、警告が表示されます。



続行するオプション

- **推奨設定**：［**SPT レポートを開く**］をクリックすると、必要な操作を完了させる指示が表示されます。レポートの［**必要な操作**］セクションを確認します。操作が完了したら、［**インストール再開**］をクリックします。
- **インストールをキャンセル**：インストールが中断されます。必要な更新を行ってインストールを再開します。
- **インストール再開**：設定が適用されていない場合でも、ダイアログが閉じ CDS コンポーネントのインストールが続行されます。必要に応じて、インストールが完了した後に設定を更新できます。

10 ［**完了**］ページで、［**ソフトウェアベリフィケーションの起動**］をクリックします。

11 ［**完了**］ページで、［**再起動**］チェックボックスをオンにした状態で、［**完了**］をクリックします。

手順 3: OpenLab CDS クライアントのアップグレード

必須要件

分析機器コントローラをバージョン 2.7 にアップグレード済みであること。

注意

アップグレード後に ADFExport 1.3 以前をアンインストールすると、データ解析アプリケーションが起動できなくなる可能性があります。

ADFExport のリビジョン 1.3 以前には、OpenLab CDS 2.7 との互換性がありません。アップグレード後にそれらの ADFExport バージョンのいずれかをアンインストールすると（それ自体のアップグレード中を含む）、重要なファイルが OpenLab CDS から削除される可能性があります。そのためデータ解析アプリケーションが起動できなくなる可能性があります。測定中の自動解析およびデータ解析が失敗する可能性があります。OpenLab CDS の再インストールが必要となる可能性があります。

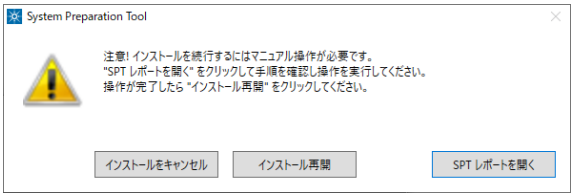
✓ **ADFExport for OpenLab のリビジョン 1.3 以前が OpenLab CDS バージョンと一緒にインストールされている場合、OpenLab CDS をリビジョン 2.7 へアップグレードする前にアンインストールしてください。**

1 管理者権限を持つユーザーとしてインストールメディアから setup.exe ファイルを実行します。
2 **［OpenLab CDS］**を選択します。
3 OpenLab CDS インストーラで、**［インストール］**画面を選択します。
4 **［クライアント］**をクリックします。
5 **［ストレージの設定］**画面で**［次へ］**をクリックします。
6 **［サーバー情報］**画面で**［接続］**をクリックしてサーバーが利用できることを確認します。サーバーが利用できる場合、OpenLab CDS の資格情報を入力し、**［次へ］**をクリックします（クライアントインストールの場合は資格情報を入力する必要がありません）。
7 アップグレードウィザードは**［システム準備］**画面にシステムの推奨設定リストを表示します。システムに適用する必要のない項目のチェックボックスをオフにすることができます。必須設定はアップグレード時に自動的に適用されます。必須設定と推奨設定の概要は、『OpenLab CDS ワークステーション、クライアント、および機器コントローラ 要件とサポートする機器』ガイド（CDS_v2.7_Requirements_ja.pdf）の「System Preparation Tool」の章を参照してください。

   ［次へ］をクリックして**［レビュー］**ページへ進みます。
   設定はインストールの一環として適用されます。

8 ［**レビュー**］画面で、［**アップグレード**］をクリックしてアップグレードを開始します。

9 インストール前に手動で操作する必要がある場合、警告が表示されます。



続行するオプション

- **推奨設定**：［**SPT レポートを開く**］をクリックすると、必要な操作を完了させる指示が表示されます。レポートの［**必要な操作**］セクションを確認します。操作が完了したら、［**インストール再開**］をクリックします。
- **インストールをキャンセル**：インストールが中断されます。必要な更新を行ってインストールを再開します。
- **インストール再開**：設定が適用されていない場合でも、ダイアログが閉じ CDS コンポーネントのインストールが続行されます。必要に応じて、インストールが完了した後に設定を更新できます。

10 ［**完了**］ページで、［**ソフトウェアベリフィケーションの起動**］をクリックします。

11 ［**完了**］ページで、［**再起動**］チェックボックスをオンにした状態で、［**完了**］をクリックします。

手順 4: ドライバーのアップグレード

GC/MS 機器を使用している場合：GC/MS ファームウェアを最新バージョンにアップグレードします。GC/MS ソフトウェアを OpenLab CDS 2.7 上で正常に動作させるためにはアップグレードが必要です。

コントロールパネルで機器を再コンフィグレーションすることを推奨します。

ドライバーのアップグレードの詳細については、「ドライバーソフトウェアのインストールまたはアップグレード」 33 ページを参照してください。

サーバーへのクライアントまたは機器コントローラの登録

ここでは、既存の OpenLab CDS PC をクライアントまたは機器コントローラとして分散環境に追加する方法について説明します。

機器ドライバーソフトウェアをマニュアルでインストールまたはアップグレードした後でもこの手順を実行し、すべての機器タイプがコントロールパネルで利用できるようにしてください。

PC の OpenLab CDS のバージョンが OpenLab Server のバージョンと互換性があることを確認してください。「アップグレード中の一時的なコンフィグレーション」 89 ページを参照してください。

ルート証明書の登録

証明書サービスが発行する自己署名証明書を使用する場合、クライアントまたは機器コントローラの新規サーバーの登録で追加の設定手順が必要です。これらの手順を実行して、新規サーバーのルート証明書を各マシン上で利用できるようにします。この手順を実施しないと、機器への接続が失敗する可能性があります。次のステップに従ってルート証明書をダウンロードし、機器コントローラのクライアントのローカル証明書ストアに登録してください。

1 管理者として Windows コマンドプロンプトを開きます。

2 Certificate Service Tool フォルダーへ移動します（C:¥Program Files (x86)¥Agilent Technologies¥OpenLab Certificate Service Tool¥Bin）。

3 以下のコマンドを実行します（<servername> をサーバー名に置き換えます）：

```
Agilent.OpenLab.CertService.CertTool.exe RegisterRootCert -h <servername>
```

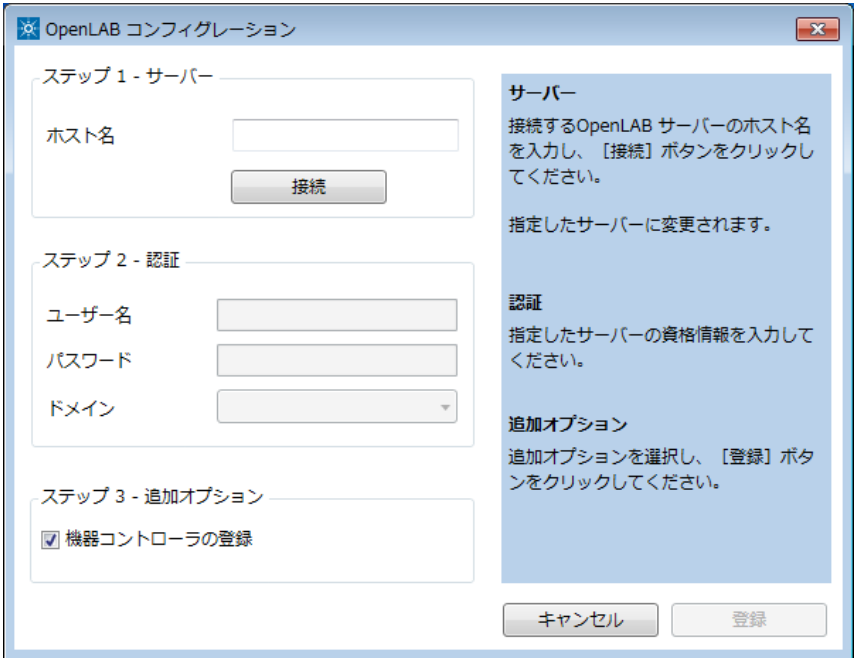
OpenLab CDS の登録

1 Windows で、［スタート］ > ［Agilent Technologies］ > ［OpenLab コンフィグレーション］を選択します。

2 ［OpenLab コンフィグレーション］ツールで、OpenLab Server のホスト名（¥¥なし）を入力します。［接続］ をクリックして、ユーザー資格情報の入力ボックスを有効にします。

注記

機器コントローラを登録する場合：正しいサーバー名を指定してください。サーバーから別のサーバーへの機器コントローラのランダム切り替えはサポートされていません。サーバーは、ネットワーク障害が発生した場合のフォールバックソリューションの状況で、定義済みのプロセスに従ってのみ切り替えできます。



3 ［認証］で、指定したサーバーのOpenLabユーザー資格情報を入力します。

4 機器コントローラの場合、［機器コントローラの登録］ チェックボックスをオンにします。クライアントの場合は、このチェックボックスをオフにします。

5 ［登録］をクリックします。

［登録結果］ダイアログが表示されます。

6 クライアントまたは AIC を再起動します。

Sample Scheduler for OpenLab

OpenLab CDS バージョン 2.6 では、Sample Scheduler for OpenLab は OpenLab CDS クライアント/サーバーインストール時にデフォルトでインストールされます。2.6 以降へのアップグレード後は、以下のコンポーネントがクライアント/サーバーのトポロジーで利用できます。

- サーバー：Sample Scheduler Database（データリポジトリの一部）、LIMS Agent、Web Server
- 機器コントローラ：Sample Scheduler Agent
- クライアント：Sample Scheduler Client、Sample Scheduler Configuration

インストール後の Sample Scheduler サービスは無効になっています。スタートメニューの［**Agilent Technologies**］>［**Agilent Sample Scheduler**］から Sample Scheduler for OpenLab をお試しいただけます。［**無償のダッシュボードを開く（Access free dashboard）**］をクリックし、指示に従います。または、OpenLab CDS Acquisition で［**Sample Scheduler**］ボタンをクリックしてください。

Sample Scheduler を定期的に使用する場合や、より多くの機能を評価したい場合は、最初にアクティブ化してください。アクティブ化の詳細については、表示される情報ページを参照してください。

測定クライアントから Sample Scheduler ボタンを削除するには、「Sample Scheduler ボタンを OpenLab CDS Acquisition から削除」 104 ページを参照してください。

新しい権限およびロール

以前のバージョンからアップグレードすると、新しい権限およびロールが作成される場合があります。たとえば、Shared Services バージョン 3.6 / OpenLab CDS 2.7 から、**アクティビティログの表示**権限が追加されています。この権限はアクティビティログや監査証跡を表示するために必要です（ロールと権限の詳細については「付録」を参照）。この権限は、新しいロール**アクティビティログのアクセス**にデフォルトで割り当てられています。アップグレード時に、この新しいロールは既存のすべてのユーザーおよびグループに自動的に割り当てられます。

アクティビティログの表示権限は、デフォルトのロール**システム管理者**にも自動的に追加されています。

10 OpenLab CDS のアンインストール

クライアントまたは分析機器コントローラ（AIC）のアンインストール 101
OpenLab Server のアンインストール 101
OpenLab Help & Learning のみのアンインストール 102

この章では、OpenLab CDS ソフトウェアのアンインストールについて説明します。

OpenLab CDS をアンインストールするには：

1 OpenLab CDS をクライアントおよび分析機器コントローラからアンインストールします。

2 OpenLab サーバーをアンインストールします。

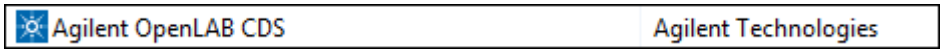
クライアントまたは分析機器コントローラ（AIC）のアンインストール

1 管理者としてログインします。

2 Windows の設定で、**［アプリ］** > **［アプリと機能］**を開きます。

3 インストールした OpenLab CDS アドオンは個別にアンインストールします（**ADFExport for OpenLab** など）。

4 **［Agilent OpenLab CDS］**を選択し、アンインストールを許可します。



OpenLab CDS アンインストールウィザードが開きます[1]。ウィザードの**［アンインストール］**をクリックし、ウィザードに従います。

5 Windows の設定の**［アプリ］** > **［アプリと機能］**にある**［Agilent Software Verification Tool］**を選択し、アンインストールを確定します。

6 OpenLab CDS によってインストールされたドライバーは自動的にアンインストールされます。その他のドライバーをインストールした場合、**［アプリと機能］**に表示されます。それらは手動でアンインストールしてください。

7 再起動します。

OpenLab Server のアンインストール

アンインストールについての詳細は、『Agilent OpenLab Server および OpenLab ECM XT インストールガイド』（ECM_XT_2.7_InstallationGuide_ja.pdf）を参照してください。

[1] アンインストールウィザードは、ソフトウェアをインストールするためのインストールウィザードから開始することもできます。

OpenLab Help & Learning のみのアンインストール

OpenLab Help and Learning のみインストールした場合、次の手順に従ってアンインストールしてください。

1 インストールメディアから、setup.exe ファイルを右クリックして、管理者としてファイルを実行します。

2 スタート画面で **OpenLab CDS** を選択し、［**OK**］をクリックします。

3 ［**インストール**］ページで、［**OpenLab Help and Learning のみ**］を選択します。

［**Agilent OpenLab CDS Help and Learning**］ ウィザードが開きます。

4 ［**削除**］をクリックします。

ウィザードによって OpenLab Help & Learning がシステムから削除されます。

5 アンインストールが完了したら、［**完了**］をクリックしてウィザードを閉じます。

11 付録

Sample Scheduler ボタンを OpenLab CDS Acquisition から削除 104
コントロールパネルの権限 105
プロジェクト権限 105
機器権限 115
管理者権限 116
営業およびサポートのお問い合わせ先 118

Sample Scheduler ボタンを OpenLab CDS Acquisition から削除

測定クライアントから Sample Scheduler ボタンを削除するには、関連クライアント上で以下のスクリプトを実行します。

```
$ErrorActionPreference = "stop"
$installDir = "not found"
Try {
  $installDir = Get-ItemProperty -Path
HKLM:¥SOFTWARE¥ChromatographySystem¥OpenLABAcq
}
Catch [System.Management.Automation.ItemNotFoundException]
{
$installDir = Get-ItemProperty -Path
HKLM:¥SOFTWARE¥WOW6432Node¥ChromatographySystem¥OpenLABAcq
}
Write-Output "Found Acquisition, installed on:"
Write-Output $installDir.ChromDir
$schedulerFile = Join-Path -Path $installDir.ChromDir -ChildPath
"Layouts¥AcquisitionClient.workspace.extensions¥Agilent.Scheduler.Acquisiti
on.Plugin.xml"
if ($installDir -ne "not found") {
  try {
    $destination = $schedulerFile + ".old"
    Move-Item -Path $schedulerFile -Destination $destination
    Write-Output "Sample Scheduler extension succesfully disabled"
  } catch {
    Write-Warning "Could not move extension file $($schedulerFile), make sure
to run this with Administrator privileges"
  }
}
else {
  Write-Warning "Could not find OpenLab Acquisition Installation directory"
}
```

コントロールパネルの権限

次に説明されている権限は、コントロールパネルの各種ロールと関連付けることができます。次のロールが使用できます。

- すべて
- システム管理者
- 機器管理者
- プロジェクト管理者
- プロジェクトコンテンツの削除
- 機器ユーザー
- 技術者
- 化学者
- アクティビティログのアクセス
- アーキビスト
- Content Management 承認者
- Content Management 投稿者
- Content Management 閲覧者
- Content Management PDF テンプレートの管理
- Content Management 管理者

コントロールパネルの **［管理］** > **［ロール］** で、関連付けられた権限を表示または変更したり、自身のロールを作成したりできます。

プロジェクト権限

表 4　　測定メソッド

名前	説明
測定メソッドの作成と編集	測定メソッドファイル (*.amx) を作成、編集および保存する。
一般ステータスの測定メソッドの使用	ステータスが**一般**の測定メソッドを使用する。

表 5 監査証跡

名前	説明
メソッド監査証跡設定の変更	メソッドの監査証跡設定を編集および保存する（コントロールパネルのプロジェクトプロパティ）。
監査証跡のレビュー	変更された監査証跡をレビューしたことを確認する。
監査証跡エントリの追加	マニュアルでエントリを追加し、自身のアクションを監査証跡に記録する。

表 6 コントロール

名前	説明
測定中のサンプルを中断	測定中のシーケンスまたはシングルランを中止する。
マニュアルコントロール（分析中）	機器が分析中の間、マニュアルコントロール機能にアクセスする。
マニュアルコントロール（機器待機時のみ）	機器が待機中の間、マニュアルコントロール機能にアクセスする。
MS オートチューニングとマニュアルチューニング	マニュアルチューニング、オートチューニング、チェックチューニングを含めて、すべての MS チューニングおよびメンテナンス機能にアクセスする。
MS オートチューニング	MS オートチューニングを実行し、チューニングをチェックする。
すべての保留中のランをキャンセル	任意のユーザーが追加したランキュー内の保留中のランをキャンセルする。
自分の保留中のランをキャンセル	ランキューにある自分の保留中のランをキャンセルする。
保留中のランの順番を並べ替え	ランキュー内の保留中の分析の順番を並べ替える。ランキュー内でアイテムを移動。

表 6 コントロール

名前	説明
優先サンプルの実行	**優先**シングルサンプルをキューに追加。
シングルサンプルの実行	通常のシングルサンプルをキューに追加。
CDS クライアントで機器コンフィグレーションを変更	実行中の測定クライアントから直接機器コンフィグレーションを変更する。注記：この権限は、一部の機器ドライバー上でまだ使用できません。
アクセス要求	別のユーザーによって現在ロックされているシーケンス、ランキュー、または機器へのアクセスをリクエストする。
アドホックモード有効	機器に対してアドホックモードを有効および無効にする。
アドホックモードのオーバーライド	他のユーザーが有効にしたアドホックモードを無効にする。

表 7 カスタムツール

名前	説明
カスタムツールセクションの表示	アプリケーションに追加された外部プログラムをカスタマイズツールから開始する。

表 8 データ

名前	説明
データのエクスポート	OpenLab アーカイブ (*.olax) へデータをエクスポートする。
データのインポート	OpenLab アーカイブ (*.olax) のデータを OpenLab システムへインポートする。

表 8 データ

名前	説明
レポートの保存	レポートをディスクまたはネットワーク共有上のロケーションに保存またはエクスポートする。
サンプル情報の編集	**［注入リスト］**ウィンドウの情報を編集する。

表 9 データ解析

名前	説明
新規結果セットの作成	さまざまなソースのシングルサンプルまたはシーケンスを、自分で組み立てた新規結果セットに統合する。
キャリブレーションポイントの有効/無効	検量線の個々のポイントを無効または有効にする。
マニュアル化合物同定	化合物をピークへマニュアルで割り当てる。
クロマトグラムのマニュアル抽出	MS (TIC-SIM/TIC-SCAN) クロマトグラムをデータからマニュアルで抽出する。
マニュアル積分	**［クロマトグラム］**ウィンドウでマニュアル積分を有効にする。
MS ライブラリのマニュアル検索	マニュアルで MS ライブラリ検索を行う。
スペクトルのマニュアル抽出	UV または MS スペクトルをデータからマニュアルで抽出する。
積分の最適化：ピーク結果の表示	積分された各ピークのリテンションタイム、面積、および面積 % を積分の最適化に表示する。
Custom Calculation Editor の起動	Custom Calculation Editor をデータ解析から起動する。

表 9 データ解析

名前	説明
マスター解析メソッドの更新	結果セットメソッドの変更を、メソッドフォルダー内の対応するマスター解析メソッドに保存する。
積分の最適化の使用	積分最適化のパラメータを編集し、ウィザードを実行し、ウィザードの機能を使用する。
データの再解析	注入データまたは結果セットを再解析する。
結果レポートの印刷	メソッドまたは結果レポートを作成する。

表 10 電子署名

名前	説明
データファイルの電子署名	データファイルに電子署名を適用することができます。
電子署名の取り消し	電子署名を取り消すことができます。
メソッドステータスの変更	サンプルプレップメソッド、測定メソッド、および解析メソッドのステータス（一般、承認済、廃止済）を変更することができます。

表 11 ファイルとフォルダーの操作

名前	説明
レポートテンプレートの削除	データ解析の［**データ選択**］ビューで、レポートテンプレート（*.rdl）を削除する（**プロジェクト管理** > **プロジェクトのコンテンツの削除**権限も必要）。
シーケンステンプレートの削除	データ解析の［**データ選択**］ビューで、シーケンステンプレート（*.stx）を削除する（**プロジェクト管理** > **プロジェクトのコンテンツの削除**権限も必要）。
メソッドの削除	データ解析の［**データ選択**］ビューで、解析メソッド（*.pmx）または測定メソッド（*.amx）を削除する（**プロジェクト管理** > **プロジェクトのコンテンツの削除**権限も必要）。

表 12 ロック

名前	説明
結果のロック	結果セットをロックして変更できないようにする。
結果のロック解除	結果セットのロックを解除する。

表 13 解析メソッド

名前	説明
解析メソッドの作成	新規解析メソッド (*.pmx) を作成、またはメソッドを新しい名前で保存する。
マスターメソッドの保存	解析メソッドへの変更をメソッドフォルダーに保存する。

表 13 解析メソッド

名前	説明
結果セットメソッドの保存	解析メソッドへの変更を結果セットフォルダーに保存する。
積分パラメータの編集	メソッドの［**積分イベント**］セクションのパラメータを表示および編集する。
同定パラメータの編集	メソッドの［**化合物**］>［**同定**］セクションのパラメータを表示および編集する。
クロマトグラム抽出パラメータの編集	メソッドの［**抽出**］>［**クロマトグラム**］セクションのパラメータを表示および編集する。
スペクトル抽出パラメータの編集	メソッドの［**抽出**］>［**スペクトル**］セクションのパラメータを表示および編集する。
MS ライブラリパラメータの編集	メソッドの［**MS ライブラリ検索**］>［**プロパティ**］セクションのパラメータを表示および編集する。
キャリブレーションパラメータの編集	メソッドの［**化合物**］>［**キャリブレーション**］セクションのパラメータを表示および編集する。
スペクトルパラメータの編集	メソッドの［**化合物**］>［**スペクトル**］セクションのパラメータを表示および編集する。
システムスータビリティパラメータの編集	メソッドの［**化合物**］>［**システムスータビリティ**］セクションのパラメータを表示および編集する。
カスタム計算パラメータの編集	メソッドの［**ツール**］>［**カスタム計算**］セクションのパラメータを表示および編集する。
シグナルパラメータの編集	メソッドの［**全般**］>［**シグナル**］セクションのパラメータを表示および編集する。

表 13 解析メソッド

名前	説明
サンプル純度パラメータの編集	メソッドの［**MS サンプル純度**］セクションのパラメータを表示および編集する。
レポートパラメータの編集	メソッドの［**レポート**］>［**注入レポート**］セクションのパラメータを表示および編集する。
一般パラメータの編集	メソッドの［**全般**］>［**プロパティ**］セクションのパラメータを表示および編集する。
古いマスターメソッドの読み込み	Content Management で、古いバージョンのマスターメソッドを読み込む。
ポスト解析用プラグインパラメータの編集	メソッドの［**ポスト解析用プラグイン**］セクションのパラメータを表示および編集する。
一般ステータスの解析メソッドの使用	ステータスが**一般**の解析メソッドを使用する。

表 14 プロジェクト管理

名前	説明
プロジェクトまたはプロジェクトグループの管理	プロジェクトプロパティの作成や編集、およびプロジェクトの移動はできますが、プロジェクトアクセス設定の表示や編集はできません。
プロジェクトまたはプロジェクトグループのアクセスの管理	プロジェクトアクセス設定の表示および編集ができます。
プロジェクトまたはプロジェクトグループの表示	プロジェクトおよびプロジェクト詳細の閲覧はできますが、編集はできません。 **注記：**この権限はすべてのユーザーに必要です。

表 14 プロジェクト管理

名前	説明
ウェブクライアントからコンテンツにアクセス	Content Management ウェブインターフェイス経由でデータを表示できます。
プロジェクトコンテンツの編集	新しいバージョンの文書（データ、メソッド、またはテンプレートなど）を作成できます。
プロジェクトコンテンツの削除	Content Management 付き OpenLab CDS の使用： • プロジェクトファイルまたはフォルダー（データ、メソッド、テンプレートなど）を Content Management ウェブインターフェイス経由で移動または削除してください。 • データ解析の **[データ選択]** ビューで、テンプレートおよびメソッドを削除してください。 **注記：**プロジェクトに含まれ**ない** Content Management データベース内のファイルおよびフォルダーを移動または削除するには、別の権限が必要です。管理者権限**セキュリティの管理**が必要です!

表 15 レポートテンプレート

権限	説明
レポートテンプレートアイテムをロック/ロック解除	レポートテンプレートアイテム（テーブル、クロマトグラム、アイテムグループなど）のロックおよびロック解除を許可して、各項目をユーザーが変更できるようにする。

表 15 レポートテンプレート

権限	説明
レポートテンプレートの検証	OpenLab CDS 以外で変更されたレポートテンプレートの使用を確認する。
レポートテンプレートの作成	レポートビューでレポートテンプレートを作成および編集する。

表 16 サンプルプレップ

名前	説明
サンプルプレップの作成と編集	オートサンプラのサンプルプレップファイルを表示、編集、および保存する。
一般ステータスのサンプルプレップメソッドの使用	ステータスが**一般**のサンプルプレップメソッドを使用する。

表 17 シーケンステンプレート

名前	説明
シーケンステンプレートの作成と編集	シーケンステンプレート (*.stx) を作成、編集および保存する。

表 18 シーケンス

名前	説明
測定中のすべてのシーケンスを編集	任意のユーザーが実行したシーケンス（ランキューのステータスが**測定中**）を編集する。
シーケンスの作成と編集	シーケンス (*.sqx) を作成、編集および保存する。

表 18 シーケンス

名前	説明
測定中のシーケンスを編集	自分で実行したシーケンス（ランキューのステータスが**測定中**）を編集する。
メソッドをオーバーライドするパラメータの編集	定義済みの測定メソッドのパラメータをオーバーライドする。

表 19 スナップショット

名前	説明
スナップショット結果のレビュー	測定中のサンプルをデータ解析で開く。

機器権限

表 20 機器管理

名前	説明
機器またはロケーションの表示	ツリー内のロケーションを表示、アクセス可能。ただしアクセスセキュリティの編集は不可。プロパティを表示可能。
機器またはロケーションの管理	ロケーションの作成、移動とプロパティの編集（名前、説明など）。
機器またはロケーションアクセスの管理	ロケーションアクセス設定の表示および編集。
機器の実行	ユーザーは機器セッションを開始できる。
機器サービス	機器のロックまたはロック解除（サービス目的）。

管理者権限

表 21 システム管理

名前	説明
プリンタの管理	プリンタおよびプリンタサーバーの追加/削除。
アクティビティログのプロパティの編集	コントロールパネルのアクティビティログの設定を変更できる (システムアクティビティログのログ記録をオンにできる)。
管理レポートの作成	システム管理レポートの作成。
システムコンポーネントの管理	コンポーネント（アプリケーション）のインストール/削除。
セキュリティの管理	セキュリティ設定の変更とセキュリティロールの割り当て。 ユーザー、グループ、およびロールの編集 (追加、変更など)。 Content Management のウェブインターフェイス：プロジェクトに含まれないファイルおよびフォルダーの移動と削除。 **注記：**この権限が割り当てられたユーザーは、Shared Services のすべての設定へのアクセス権を自分自身に与えることが可能です。誰に「セキュリティの管理」権限を付与するのかに注意してください。
機器コントローラの管理	コントロールパネルで機器コントローラを編集できる。
ロックされた UI をロック解除	他のユーザーがロックしたセッションにログインできる。

表 22 Content Management

名前	説明
コンテンツのアーカイブ	Content Management データリポジトリのコンテンツのアーカイブ。
テンプレート管理	PDF テンプレートを表示、作成、更新および削除する。

表 23 アクティビティログのアクセス

名前	説明
アクティビティログの表示	システムアクティビティログにアクセスする（ログエントリの記録は影響されません）。

営業およびサポートのお問い合わせ先

営業およびサポートのお問い合わせ先については、以下のウェブサイトを確認してください。

https://www.chem-agilent.com/contents.php?id=1001827

アジレントコミュニティ（英語サイト）

1万人以上のユーザーが参加するアジレントコミュニティで、疑問が解消されるかもしれません。プラットフォーム技術によって構成された、厳選されたサポート資料をご覧ください。同業者や協力者に質問することができます。作業に関連した新しいビデオやドキュメント、ツール、ウェビナーで通知を受けられます。

https://community.agilent.com/

本書の内容

このドキュメントには、OpenLab CDS クライアントおよび分析機器コントローラのインストール手順、コンフィグレーション、管理、およびメンテナンスの方法が記載されています。SubscribeNet からのライセンス作成とオペレーティングシステムの設定に関する情報も記載しています。

マニュアルでは、以下について説明します。

- OpenLab CDSクライアントまたは AIC 上でのインストール
- ソフトウェアライセンスの作成およびダウンロード
- OpenLab CDS の設定
- オプションの手順
- カスタマイズ
- OpenLab CDS ソフトウェアについて
- システム設定およびメンテナンス

www.agilent.com

© Agilent Technologies Inc. 2015-2024

エディション : 2024 年 2 月

文書番号: D0013818ja Rev. C

Agilent